

傳習館



東京同窓會會報

第12号 2012.1.1



平成 24 年度東京同窓會總會案内
俳句断想

奮励努力と成果
今振り返ると…

バレーボール部と恩師中島時夫先生
ふるさと瓦版



表紙写真

「忍野八海—鏡池」

撮影 高2 松尾哲夫氏

—我が国金型産業の権威。セミプロ写真家・
元ツーリスト写真指導員—

表紙裏写真

「サゲモン」

撮影 高8 樋口誠佑氏

旧柳川藩時代から初節句に子供の成長と幸せを願い、さげもんを飾る風習がある。柳川市内では毎年2月上旬から4月初めまで、「さげもん祭り」が開催されて、一般に公開されている。

友人や知人の紹介で見せて貰った家々のさげもんには、代々引き継がれた歴史とメルヘンを感じるものが多い。

裏表紙写真

「川下り」

撮影 高8 樋口誠佑氏

柳川の代名詞みたいな「川下り」。住んでいた時は余り気にしなかったものが、遠くに離れて居ると「水温む我が産土（うぶすな）……」で懐かしい。

柳河小学校からの親友で花嫁船頭をしている植木 修君（第9回卒）の世話で、次男家族と久しぶりに「どんこぶね」で川下りを楽しんだ。

第12号 2012.1.1

東京同窓会本部より

平成 24 年年頭の挨拶	会長 江崎 正直	2
修学旅行生との交流会	高 18 福山 博彰	3
東京同窓会の歩み	副会長 松永 肅	5
平成 24 年度同窓会総会のお知らせ		7
賛助金ご協力状況報告		8
賛助金通信欄コメント		9
東京同窓会決算収支報告		10

先輩・後輩より

俳句断想	中 56 成清 良孝	11
奮励努力と成果	高 2 江崎 正直	12
乗り物笑話	高 7 田中敬之助	14
賛助金の納付に協力しよう	高 8 樋口 誠佑	15
独楽吟	高 11 龍 勝	17
今振り返ると	高 12 福本 義人	18
青春のパイプライン (音楽授業編)	高 18 福山 博彰	19
伝習館バレーボール部と恩師中島時夫先生	高 27 川口 聡	21
続・バレーボール部余談	高 14 高木 節子	23

学年だより

高 2 回「首都圏高 2 回」開催	高 2 小野 善睦	23
ふくの会	高 5 近藤 正彦	23
高 8 回 (昭和 32 年卒) 同級会開催	高 8 樋口 誠佑	24
高 12 回生同期会「くっぞこ会第 28 回」	高 12 小野あけみ	24
高 14 回柳川での同期会開催	高 14 高木 節子	25

母校だより

平成 23 年度進路状況		25
--------------	--	----

ふるさと瓦版

広報やながわより—柳川観光事情		26
白秋の故郷のうた～7 首		28
市報おおかわより—市長のひとりごと		29
市報おおかわより—琴奨菊関・古賀政男記念大川音楽祭		30
広報やながわより—綿貫家住宅・柳川藩の長崎屋敷		31
広報やながわより—白秋献詩・琴奨菊関		33

新刊紹介など

船小屋と柳川間の路線バス運行		34
柳川の社寺建築Ⅱ		34
長谷建の絶筆～未完の小説『帰去来』		34

傳習館



東京同窓会報

東京同窓会本部より

平成 24 年年頭の挨拶

同窓会の活性化にご協力を

伝習館東京同窓会 会長 江崎正直

皆さん！新年明けましておめでとうございます。

昨年は総会が無く、修学旅行生との交流だけがありました。詳細は福山君が本文中に書いておりますように、今年の特徴は、現役の大学生を含めて、若い先輩の出席者が多かったので生徒達に歓迎されました。徐々にではありますが、若返りが進んでいることを大変嬉しく思います。生徒達も、大学生や若手の同窓生とが話し易いようです。生徒側の希望も配慮して、今後も若年化を推進して行きましょう。

賛助金の協力については、会報の年頭挨拶の中で私が毎年書いてきましたが、一向に向上しません。之を何とか改善すべく、今回、樋口君が賛助金の実情を本文でかなり突っ込んで説明してくれました。内容を理解していただき、今後、多くの会員のご協力をお願いします。

母校伝習館は先生方のご努力、それに応える生徒の皆さん方の精進によって、筑後地区の優良高校であることはご存知の通りです。その成果が稔って多くの大学から評価を受け、昨年、早稲田を初めとして著名な大学から推薦入学の指定校に指名されました。大変、名誉なことです。

これから校舎も改良・新築されるので、更に実績が上がるよう、先輩は期待しています。

私どもは東日本大震災のような被害を受けずに済みましたが、世の中は、いつ何が起きるか分かりません。

現に日本の国家財政は未曾有の大赤字を抱えた上、極端な円高により多くの企業が苦しんでおります。世界全体が不況ですから、この危機を突破するのは容易なことではありません。

お互いに苦勞を背負うことになりましょうが、それを克服する必要があります。それには先ず健康であることです。お互いに健康に留意して、元気で長生きしましょう。

活性化の一助として、この夏の東京同窓会総会にご協力をお願いします。

平成23年度 修学旅行生とOBとの交流会について

平成16年から始めた恒例の高校2年の修学旅行生と卒業生OBとの交流会が、今年第8回を迎え開催されました。

日時…9月13日(火) 19時～21時

場所…リーガロイヤルホテル東京(宿泊先)

出席者…高校生約280名、先生方、並びに卒業生OB48名(内、大学生20名)

同ホテルのロイヤルホールにて、三宅清二館長、江崎正直東京同窓会会長がご挨拶、事務局より運営方法などを説明後、7組に分かれて懇談に入りました。

この交流会は将来の指針のきっかけになればとの趣旨から、高校生の質問・疑問にOBがその経験を交えて答える形式で、今回、大学生は30分毎に移動し3クラスを回る、席の配置を従来の対面式から同心円状に設定、進行役に若手・中堅社会人を起用等、新方式を導入しました。

また、過去の反省を踏まえ、高校生が一番身近に感じ共感を覚える世代である現役大学生に広く出席を呼びかけ、20名もの多くの参加が実現できました。

各組にはご協力頂いた大学生、若手・中堅社会人、シニアOB及び女性のバランスを考慮して配置、小人数で懇談の組あり、笑い声や歓声の上がる組も多く、大学生と高校生との意見交換主体に

盛り上がり、例年にも増して活発且つ和気あいの雰囲気の中、成功裡に終わりました。

高校側の評判も良く、9月26日付にて三宅館長より江崎会長宛にご丁寧なお礼状を頂き、また生徒よりの感想等のまとめも11月初旬に会長宛に届きました。その一部をご紹介します(抜粋・要約)。

《高校生の印象に残ったOBの言葉・話》

○社会、会社では勉強したこと以外の仕事をやらなくてはならないことは多い。

○しないで後悔するよりも、やって後悔する方がいい。自分のしたい事をする。大学も自分の行きたい大学に行く。

○高校では受身の勉強だが、大学では自分から学びに行く必要がある。

○他人の言葉を待つよりも、自分で考えて動くことが当たり前になる。

○仕事で大切なのは報告・連絡・相談(ホウレンソウ)。人間関係がうまくいくためにしっかりと覚えて、できる大人になる。

○大学の選択は、一つに絞るのではなく、広い視野を持って選んだ方が良い。

○何でも自分から頑張ろうとする気持ちが出ることで、初めて本気で取り組んで物事が達成できる。「なにくそ根性」でやれば大体うまくいく。

○得意な教科を伸ばすよりも、苦手な教科を克服

服していく方が良い。

○勉強は、やらされていると思ってる時は余り伸びない。目標を持って勉強すると伸びる。

○受験に向けての勉強ではなく、目標を早く決めて、それに向かって大学に受かるように勉強すると良い。

《高校生の感想》

○各組に若い卒業生が入り盛り上がった。先輩方の後輩への親身のアドバイスや体験談が生徒達の琴線に触れた。先輩方の母校への思いと後輩への暖かい心に感動した。伝習館生は素晴らしい先輩に恵まれて幸せだ。(三宅館長)

○先輩方の何人も、若いうちにしたいことをして後悔しないようにと言われていたので、自分も早く自分の目標を立てて頑張りたいと思った。

○先輩方の苦労話、体験談を聞き、視野の広さ、経験の豊かさに感銘を受けた。

○精一杯話して下さる先輩の姿に、後輩に対する愛情をひしひしと感じた。

○現役の大学生から色々な話が聞けて良かった。今までの自分を見直し、将来を考え直すことができた。

○去年まで高校にいた方が大学生になってキラキラとして楽しそうに羨ましくなった。勉強しようと思った。

○分かってはいたが、勉強の話が沢山出てきて

面白かったが、そんなに勉強しなればならないのかと少しショックだった。

○進路で迷っているので、先輩方の貴重な話が聞けて本当にためになった。

○大学生から年配の方まで幅広い年代の方の話が聞けて良かった。自分も頑張ろうと思える交流会になり、良かった。

○先輩方の話は全てためになり、親近感が湧き、東京に住んでみたくなった。

○具体的な話になる話として、時事を知り、英字新聞に目を通す、大学の出題傾向を知る、目標は早く決める、を実行して行きたい。本当に良かった。

○目標を立てることの重要性を感じた。まず職業を考え、その上で大学を決め、そこに向かって勉強を楽しくしたい。

○伝習館生としての誇りを持って頑張っていきたい。高校卒業後は、今度は自分達が後輩に何かを伝えることができる先輩になりたいと思った。

《OBより》

OBとしては、今の高校生はおとなし過ぎる、消極的でコミュニケーション能力も不足、東京や海外に出て行く気概も感じられないとの印象があり、この点やや心配です。しかし、大学生は皆活発で、中には高校生の時の交流会では消極的でも、今では立派に意見の言える大人に成長してい

る人もいます。高校生の将来に期待しましょう。

同時に、大学生には交流会を実社会を学ぶ貴重な経験の場、社会人OBと話せる機会として活用願いたいです。交流会後にその労をねぎらい、親交を深め底辺を広げる趣旨での懇親会も盛会でした。

今回が一番良かったとの感想を多く頂きましたが、これも勧誘・準備・参加をして下さった大学生・OBの皆様方ご自身のお陰です。改めて感謝申し上げます。

高18回 福山博彰



交流会出席協力者 (敬称略)

中学55	江崎和夫	23	樋口貴美子
高校2	江崎正直	24	酒見和平
3	酒井清行	26	原敬輔
4	荒井健之輔	28	永岡雅子
5	松永 肅	32	境 和晃
12	小野アケミ	32	守谷由佳
12	辻野史朗	34	大津志保
13	原田万紗子	36	江口一元
14	高木節子	51	大曲由起子
18	福山博彰	51	本村泰樹
18	満生英二	51	山田美紀
20	高巢和登	55	武下優子
21	白谷政則	55	松尾春菜
23	高田健二	55	龍 幸宏
大学4年	川口惇	2	関 翔子
4	古賀康之	2	田中祥子
4	樋口由香里	1	生田正史
4	深町日出海	1	江崎崇浩
3	市川広大	1	亀崎元貴
3	小柳真咲	1	亀崎康広
2	植木 智	1	古賀康孝
2	高口祐貴	1	杉なつみ
2	國分美彩衣	1	中村知永
2	島添賢一	1	安永 新
			現役大学生20名
			合計48名
			OB28名

東京に輝ける三稜の星たち

—東京同窓会の歩み—そのII

副会長 松永 肅

前号で経歴を紹介しました故古賀会長は、昭和54年に前宮崎駒吉会長から会長を引継がれ、平成4年12月に逝去されるまで15年間務められました。東京同窓会は大切な指導者を失い、落胆しておりました。

丁度このころ、母校伝習館は、平成6年1月に、文政7年(1824)第17代藩主立花鑑賢公が伝習館を創立以来、170周年、明治27年(1894)県立移管100周年という歴史的節目を迎えることになり、記念式典は勿論のこと、公費による校舎の大改装を行い、併せて同窓生が寄贈する中庭照明施設の新設・講堂(体育館)の緞帳の新調・運動場の大改装等を行い記念事業に相応しい学校にするための募金が始まりました。母校の西山 彰校長と、私の同期で本校同窓会理事であった本吉 湊君を通して、事務局あて記念事業募金の要請がありました。然しながら東京同窓会の次期会長が決まっておらず急ぎ選任の必要から、当時、東京同窓会に大変ご協力いただいた諸先輩に相談して候補者を選んでいただき、数名位の皆様をお願いしてみました。が何れも他校の同窓会の会長に就任されたり、古賀会長が生前に次期会長にと囑望されていた大企業の社長は不治の病を患われており、最後にご無理を承知で当

時東京同窓会の幹事長的な役割をはたしておられた、古賀義利氏に、旧制佐賀高等学校同窓会(菊葉会)の東京支部長を務めておられた江口三千雄氏を説得していただき、引受けていただきました。

江口新会長の略歴は、明治44年に柳川市西浜武でお生まれになり、昭和4年に中学伝習館(36回)を卒業、昭和7年に旧制佐賀高等学校を卒業、昭和10年東京大学経済学部経済学科を卒業され、直ちに日本不動産株式会社(東大卒のみ入社)に入社され、以後三井グループの三井鉱山株式会社・三井金属鉱業株式会社に転属しておられます。

当時は戦争中であり、軍需品を製造するには外国から鉄鉱石などを輸入する必要があるから、江口新会長も海外勤務が多く、大半をビルマ・シンガポール・ジャワ・スマトラ・南米ペルーなどで活躍されました。戦後は三井金属鉱業株式会社取締役大阪支店長・取締役ペルー総監督(ワシントン・サウ・山)・昭和43年には本社常務取締役(総務・人事・イタイイタイ病)・昭和47年に名誉顧問に就任しておられます。会長就任にあたり、条件として副会長に故古賀会長の奥様の古賀弘子(女34回卒)氏をお願いして欲しいとの要請があり、諸先輩と相談し賛同を得ましたので早速、私のご自宅に伺い内諾を得ました。

これで東京同窓会も新しい指導者を得たので、懸案の母校・伝習館の記念事業の取り組みがスタートしました。然し乍ら今回の記念事業の大半は公費による校舎の大改装が主体であり、校舎の付帯的な増設と改装の費用を同窓生で賄う程度の募金活動となり、募金の総額も少なく、先の昭和55年の県立移管90周年記念事業とは異なり募金の総額を卒業年度別に割り当てられたので、東京同窓会としては、募金活動の煩雑さはなくなりました。その後、本吉 湊君から募金活動は目標額を大幅に上回ったとの報告がありました。

平成6年1月28日(金曜日)に本校の改装された立派な講堂で記念式典と記念講演が挙行され、祝賀会が御花で開催されました。私も江口会長のお供で出席させていただきました。3月には記念事業の高額寄付者に対し457ページに及ぶ立派な記念誌や記念品が贈呈されました。

東京同窓会も記念同窓会を盛大に開催する機運が高まっておりましたので、江口会長や古賀副会長の意向もあり急ぎ記念同窓会の準備に取り掛かりました。

百周年記念同窓会は同窓生に一人でも多く参加していただくために盛大に催す必要から普段から協力願っている諸先輩などをお願いして、準備いたしました。

私が記憶している皆さん方は、武藤徳一、成清良孝、江崎和夫、永江政勝、増尾義勝、白谷正敏、田中禮二、沖美津正、吉開孝人の各氏などで、大変ご尽力いただきました。

百周年記念の準備状況を詳細に説明しますと、紙面の制約もありますので、当時の案内状を掲載させていただきます。

創立170周年(県立移管100周年)記念

伝習館高等学校東京同窓会総会開催について

謹啓 春暖の候ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃は伝習館高等学校東京同窓会へご協力賜わり心からお礼申し上げます。

さて、母校伝習館高等学校は文政7年(1824)第10代藩主立花鑑賢公が伝習館を創立以来、170周年、明治27年(1894)県立に移管され100周年という歴史的節目を迎え、去る1月28日(金)記念式典が盛大に執り行われた事はご高承のとおりであります。

記念事業につきましては、公費による校舎の大改装工事も順調に進捗しており、既に整った運動場・テニスコート等に加えて同窓会が実施した記念事業募金も目標額を大幅に突破し、中庭の照明施設の新設・講堂(体育館)の緞帳の新調等の寄贈により、記念事業に相応しい校舎として完成しつつあることはご同慶の至りと存じます。

東京同窓会の歴史も古く、明治から大正時代に遡り、上野の御徒町に在った柳川藩の下屋敷に在京の諸先輩や学生が集い鶏肉を農具の鋤の上で焼く謂る「鋤焼会」を催して旧交を温めていたのが始まりであります。昭和に入り世田谷の松原に同郷の子弟の奨学育英の事業と、会員

相互の情誼の場として学生寮を備えた財団法人柳河学友会が設立され運営されてまいりましたが、戦前・戦後の混乱により、途絶えていた親交の復活を目的として、昭和27年（1952）伝習館高等学校東京同窓会として再生されました。爾来今日まで活動を重ねてきたことは、他に類のない100年に余る歴史を誇る「同郷会員の親交の場」であると言っても過言ではありません。

茲に伝習館東京同窓会も大きな節目を迎えました。この機に会員の皆様と挙げて100周年を記念する同窓会を催し、盛大に祝賀いたしたく存じます。

柳川藩立花家の特別のお計らいにより門外不出の抜刀術「景流」の披露、郷里に縁りのあるフルート奏者岩下智子、母校出身の音楽家筑場亮子（高校40回卒）の友情出演により、本大会を盛りあげ次の世代21世紀に向けての足掛かりといたしたく存じます。

特に今回は、老若男女、相見え、楽しいひと時をお過ごしいただくため工夫を凝らした催しものを集め、「普段着の集い」といたしましたので、皆様お誘い合わせのうえ、お気軽にご出席下さいませようご案内申し上げます。敬具

1. 日時 平成6年4月23日（土曜日）12時30分

2. 場所 東京都千代田区飯田橋1-1-1

ホテルグランドパレス（九段下）宴会場 ダイ

3. 会費 ヤモンドルーム（2階）1万円（当日会場でお支払下さい）

4. 催物

（1）特別披露 旧柳川藩伝承の古武道「景流」



（旧、柳川藩において門外不出の「お留流」剣法として伝承された抜刀術、佐々木小次郎を上回る長剣の抜刀術は必見である。

（2）友情出演

○岩下智子 フルード特別演奏（国際フルートコンクール世界第2位、東京芸術大学卒・大学院修了）

○筑場亮子 声楽特別出演（伝習館高校40回卒・柳川市出身、東京

芸術大学声楽科卒業）

お二人には「旧柳川高女校歌」と「校風振興の歌」の歌と演奏を特にお願しております。

（3）その他

○伝習館高等学校の校舎の近況紹介（ビデオ放映又はパネル展示）を予定しております。

○柳川市商工会議所・観光協会等による柳川地区の近況紹介

（ビデオ紹介又はパンフレット、パネル展示）を予定しております。

以上

上記の要領で記念同窓会が開催されました。出席者も370名を超え、同窓会開催以来最高の記録を残しております。

同窓の皆さんには大変な協力をいただきました。高校6回卒で当時サッポロビーの常務取締役販売促進本部長河野弘史（元柳川市長）氏からビール300本・ウイスキー20本の寄贈をうけ、特に立花家から門外不出の柳川藩伝承の古武道「景流」の抜刀術の披露を公開していただきました。また母校伝習館や、地元柳川市も柳川商工会議所・観光協会などからビデオ放映・パンフレット・パネル展示で会場を大いに盛り上げていただきました。

江口会長・古賀副会長の選任はこの周年記念の総会に上呈され、満場一致でいずれも承認され就任されました。会長・副会長の初仕事がこの100周年記念同窓会総会でありました。

この年の夏、伝習館同窓会理事の本吉湊君から今回の周年記念は歴史に残る

貴重な事柄であるため、この学舎で学んだ証となる記念品が欲しいと大半の同窓生が願っていると思うので、良いアイデアはないかとの相談がありました。熟慮の結果、本吉君に伝習館と、柳河高等女学校の校歌を合わせた「CD」を作り記念品として頒布することを提案しました。理由は女学校は戦後の教育改革で伝習館と併合され世間から忘れ去られようとしているので、女学校の校歌も同じ途を辿るのではと危惧してしまいましたので、2校の校歌を併せて作成し後世に残してほしいとの願いからでありました。早速本吉君から同窓会理事会に提案し承認されました。本吉君が「CD」作成の責任者に指名されました。

「CD」の記念品は有償とし、作成費用として同窓会から100万円借用して1千枚作成することにしました。「CD」の内容は伝習館の校歌はデュークエイセスに、筑場亮子さんには女学校の校歌を分担してもらいました。作成に当たっては学校などの打ち合わせ等を本吉君が、東京にはデュークエイセスの事務所や「CD」を作成するスタジオが六本木にあるため東京同窓会の有志の成清良孝・武藤徳一・丸勢正夫・白谷正敏・倉本博子・田中禮二・沖美津正の各氏と私が本吉君を補佐しました。

また、「CD」作成は有名な「アオイスタジオ」を使用させてもらい、演奏に先立ち伝習館の校歌に「大太鼓」と「巻頭言」が必要なため、中学時代の大運動会などで経験しておられた中学56回卒の鬼丸敏男氏に「大太鼓」を、「巻頭言」



の唱和を高校2回卒の山口克己氏に無理にお願いで立派な「CD」ができあがりしました。勿論、本吉君も現場に立ち会い満足そうでした。

特に筑場亮子さんは柳河高女の校歌を徹底的に研究され、その美声がいかなく発揮されていたのには只々頭が下がる思いがいたしました。

完成した「CD」には創立170周年（県立移管100周年）記念 福岡県立伝習館校歌集とあり、裏面は伝習館校歌集とあり6曲の校歌が挿入されています。

東京同窓会では、完成した「CD」のうち300枚を預かり、配布方法を関係者と相談の結果、配布価格は原価の1,000円に郵送費等を加えて1枚1,3

平成24年度 東京同窓会総会開催のお知らせ

最近の同窓会は、イベントも充実しており、会場では笑顔で旧交を温める人の輪があちこちに出来、楽しいひと時を過ごせるようになったと喜びのお言葉をいただくようになりました。

今年も同窓会総会を開催いたします。皆様お揃いでご出席くださいますようご案内いたします。

日時 平成24年7月8日（日曜日）
午前11時～午後2時30分（予定）

場所 ホテルグランドパレス 「2階ダイヤモンドルーム」
千代田区飯田橋1-1-1（地下鉄九段下車）

会費 男性10,000円 女性9,000円 学生 無料

講演会（午前11時～12時） 講師 立花寛茂氏
テーマ「戦後の立花家」

前回の同窓会の講演会で立花家17代当主立花宗鑑氏の「柳川と立花家」と題して、三男の立花民雄氏には「藩校 伝習館」と題して何れも含蓄のある講話を拝聴させていただき、今更ながら柳川と立花家との絆の深さを思い知らされました。ただ、次男の立花寛茂氏の講話が時間の都合で最後まで拝聴できず、改めて講話を拝聴したいとの強い要望が寄せられておりますので、ご無理を承知をお願いしております。

余 興

今回は高校23回卒のみなさんが中心となって検討しております。

お楽しみ抽選会

「御花」の1泊2食付宿泊券、「ホテルグランドパレス」の食事券など多数用意しております。

ふるさとの物産展

「がね漬け」や「貝柱の粕漬け」など懐かしくて美味しい郷土物産の売店を設けます。

皆さんの参加で楽しい同窓会にしましょう

50円として、募集することになりました。「CD」の割当てが少なく、東京同窓会員の約2,400名全員には到底案内出来ず、範囲を周年記念の案内に対して返信された約800名の皆さんに案内

した結果、15枚が残りしましたが、これを平成8年度の東京同窓会で販売し、全て完売しました。また、地元の同窓会も意外と希望者が多く再度「CD」を1,000枚発注し対応したと聞いておりま

す。今ではこの「CD」を東京同窓会の会場でBGMとして使ったり、お開きの校歌斉唱の時などにも活用されております。

【賛助金ご協力状況報告】

平成22年11月15日から平成23年10月21日まで

卒回	氏名
高3	近藤 宣夫
高3	松崎 美年子
高3	長谷川 千枝子
高3	田島 順次
高4	緒方 常子
高4	椛島 啓之
高4	山本 瞳
高5	岸 洋子
高5	宮川 政實
高5	原 タカ子
高5	高橋 絹子
高5	松永 悦子
高5	藤好 亨
高5	武田 八重子
高5	野口 幹彦
高6	井手 眞
高6	井手 由紀子
高6	古賀 祥子
高6	松永 真侍
高6	森 清旨
高6	石橋 修
高6	増尾 友子
高6	池田 勝嗣
高6	中村 充子
高6	本間 洋子
高7	松藤 賢一人
高7	大藪 成啓人
高7	中村 中啓
高7	田野 弘子
高7	浜部 章
高8	海古 庸子
高8	後藤 亨
高8	高石 順子
高8	市川 玲子
高8	松本 登四男
高8	川崎 悦子
高8	池上 藤則
高8	中村 清美
高8	津留 京子
高8	田代 桂子
高8	嶋本 幸子
高8	樋口 綾子
高8	龍 敏子
高8	高橋 雅之
高9	高口 猛子
高9	高井 上紀子
高10	江口 弘武
高10	永尾 弘行
高11	吉川 照子
高11	久賀 朝文
高11	興田 広巳
高11	原尻 満子
高11	山浦 素明
高11	秋永 栄子
高11	西田 孝行
高11	大坪 みどり
高11	大淵 慶紀
高12	甲木 宏明
高12	馬場 敦子

卒回	氏名
高11	佐藤 耀代子
高11	石橋 秀男
高11	樋口 守
高15	小河 良充
高17	宇木 博巳
高18	高比良 明子
高27	松藤 峯成
高28	吉開 孝人
協賛 1.5口	
中55	武藤 徳一
女42	寺田 ソエ子
女47	富田 尚子
女47	板橋 久子
高3	高木 邦介
高3	今村 繁隆
高3	酒井 清行
高3	石橋 雅史
高3	塚田 時子
高3	木村 澄子
高4	藤丸 稔子
高5	家入 智恵子
高5	松尾 久子
高5	野林 久代
高7	久良木 博道
高8	村岡 ハルノ
高8	大村 泰生
高8	池下 孝人
高8	木田 清治
高8	甲斐田 義春
高10	石橋 邦博
高12	横山 正和
高12	小畑 妙子
高13	原 伸
高14	松尾 子工
高15	一木 克子
高16	水澤 昭子
高17	山本 祥子
協賛 1口	
中49	松尾 淳
中50	廣松 親弘
中55	吉弘 尚正
中55	馬場 淳三郎
中56	高田 信義
併中2	石川 遠彌
女33	木下 千遠
女42	遠藤 美代子
女42	山口 トヨ
女42	富重 信光
女45	板井 征瑞
女47	松永 征矢
高1	高石 満之
高2	古賀 苦住
高2	諸藤 繁樹
高2	大橋 貞夫
高2	池田 國彦
高2	田中 豊子
高2	徳安 朔子
高2	北原 大董
高3	臼井 ヒロ工
高3	藺田 麗子

卒回	氏名
高2	河野 健一郎
高2	吉川 良平
高2	廣松 敏克
高2	古賀 キヨ子
高3	西山 彰
高3	村井 タカ子
高4	原 勝子
高4	荒井 健之輔
高4	荒井 健之輔
高4	高江 茂子
高4	高江 敏男
高5	高安 藤祥介
高5	古賀 弘
高5	江口 政司
高5	中村 義行
高5	中村 裕彦
高7	中村 伴部
高7	中米 永勝
高8	遠藤 武雄
高8	坂口 加津代
高8	堺 八郎
高8	川口 融
高8	中川 辰之輔
高8	樋口 誠佑
高10	石橋 博史
高10	川口 圭之
高11	大森 靖子
高11	田北 昌久
高11	龍 勝
高12	小野 アケミ
高13	近藤 達実
高14	高木 節子
高14	今村 悦子
高14	平野 晴子
高18	十時 理展
高18	松藤 充子
高18	川口 秀喜
高18	大津 博
高18	満生 英二
高18	木下 栄一郎
高20	横山 光治
高20	岡 賢二
高21	西原 正道
高22	竜 美代子
高23	高田 健二
高23	樋口 貴美子
高24	山田 直美
高27	江崎 友大
高27	高橋 圭介
高31	平田 洋
協賛 2口	
中51	松本 一郎
高8	石貫 タツ子
高8	堤 千代子
高8	豊島 黎子
高8	本木 寅三郎
高10	永倉 素子
高10	大村 平人
高10	中村 紀子
高10	東 辰子

卒回	氏名
協賛 50口	
高2	江崎 正直
協賛 15口	
中54	武藤 吉郎
協賛 10口	
中52	乗富 光義
高10	山崎 壽男
高19	野口 昇
協賛 5口	
中47	藤木 生雄
中47	田崎 英敏
中57	近藤 敏治
女45	石橋 佳香
高1	梅崎 俊行
高1	與田 博利
高2	小野 善睦
高2	松尾 哲夫
高2	石橋 忠
高4	石川 清喜
高4	渡邊 喜亮
高5	岸 栄洋
高5	原田 和幸
高5	古屋 和子
高5	松永 肅市
高5	金納 和行
高5	下河 秀記
高6	荻島 直治
高6	戸上 軍健
高6	高木 健三
高6	田中 啓子
高6	木村 峯美
高8	内吉 由美
高9	津開 ルリコ
高9	津留 昇
高10	石橋 寿雄
高10	内山 秀生
高10	高島 早苗
高11	福田 栄子
高15	大村 隆秀
高16	椛島 正司
高16	荒巻 明美
高18	山下 京一
高18	森田 啓悟
高18	福山 博彰
高18	平野 勇
高20	椛島 豊子
高21	石川 俊則
高21	白谷 正平
高24	酒見 和
協賛 4.5口	
中52	大内 礼三
協賛 3口	
高7	田中 敬之助
高7	龍 弘道
高8	永倉 正彦
高8	與田 武久
協賛 2.5口	
中56	松本 学
女37	岡田 常子
女46	古賀 弘子

卒回	氏名
高23	下田 真知子
高24	古賀 信也
高24	石川 八重子
高28	中島 真二
高32	咲村 あかね
高37	若尾 奈実子
協賛 0.5口	
中50	三山 心栄
女44	宝珠山 福代
高11	高田 晟
高14	大村 陽子

(1口 2,000円)

卒回	氏名
高20	海東 信子
高20	荒巻 和徳
高20	高松 信子
高20	児玉 あけみ
高20	諸藤 由美子
高20	石橋 康治
高20	堤 博史
高20	藤丸 昭徳
高20	龍 幸夫
高20	近藤 敬介
高21	柿野 貴美子
高21	千代島 道生
高22	藤吉 弘子
高22	白井 多佳子

卒回	氏名
高17	中島 功
高17	藤木 清勝
高17	龍 敏彦
高17	鈴木 清子
高18	井口 文章
高18	古賀 行夫
高18	中川 紀代子
高18	中村 易也
高18	津留 知子
高19	高見 雅代
高19	高森 達雄
高19	藤吉 克博
高20	井口 ちづ子
高20	塩田 佳也

卒回	氏名
高12	尾田 常昭
高12	鈴木 弘子
高13	原田 万紗子
高13	山田 孝雄
高13	西 雅治
高13	田中 利道
高14	浦家 史好
高14	今泉 京子
高14	志田 和彦
高14	川口 治彦
高15	岩崎 雅子
高15	後藤 民子
高16	高 棟正
高16	黒田 タエ子

伝習館東京同窓会 賛助金通信欄コメント

高3 村井タカ子

毎号楽しく拝読しております。さくねんは私体調悪くし、うっかり会費の払込を忘れて下りました。申し訳ありません。昨年の分も含めて5,000円送らせていただきます。よろしくお配下下さいませ。

中51 松本一郎

会報11号拝読、表紙の表裏写真に感動しました。

高2 江崎直直

会員各位の実質的なご協力を切に希望します。

高13 田中利道

編集委員のみなさま、いつも素晴らしい会報の編集・発行お世話様です。毎号心待ちしながら、懐かしく楽しく拝読しているところですが、特に今号(11号)は内容が充実しており編集長のお言葉のとおり小生は永久保存にいたします。

高22 藤吉弘子

楽しく拝読させていただきました。ふるさとの香りがいたします。ありがとうございます。

高14 松尾チエ子

幹事の皆様方御苦勞様です。会報楽しみにさせて頂いております。これからも宜敷くお願いいたします。

敬称略

高13 進藤達実

今般第11号ありがとうございます。柳川と立花家、や「伝習館と立花家」ととても勉強になりました。昨年友人とドンコ船に乗りましたが、御花に近ずいた付近でうどん製麺所でしょうか？排水で川面がまっ白。残念でした。

中54 武藤吉郎

伝習館東京同窓会11号誠にありがとうございます。ざいしました。西山彰先生(伝習館同窓会顧問・元伝習館校長)の表紙富士山、表裏紙の柳川川下りの入口の風景は素晴らしい一言であります。今回も楽しく拝読させて頂きました。江崎直直会長さんを始め編集委員の皆様様に感謝を表する者であります。不肖私も中学伝習館昭和17年入学生として

高23 下田真知子

いつも楽しく読ませてもらっています。ありがとうございます。初めて知っている先生の名前が登場しました。伝習館事件の半田先生他お二人の先生の授業を受けました。教科書を使わない変わった授業でした。

高6 戸上重治

会報誌ありがとうございます。毎回楽しみに拝読しております。白谷政則様の総会をふり返っての記事を読み、改めて幹事の皆様のご苦勞に感謝・感謝です。ありがとうございます。

高13 西 雅治

幹事の皆様、隔年開催の東京同窓会や毎年の会報発行等、会の活動へのご尽力ご苦勞様です。心から感謝申し上げます。

高7 龍 弘道

広松さんの記事拝見、父上は日本化業に

勤務されていたようですが、当時の日本化業は、ポーナスは20ヶ月分位でいた会社、昔は良かったですね。

高42 富重信子

総会講演要旨等、柳川への想いがますます深まりました。昨年10月10日間位柳川・福岡へ旅行しました。立花いこいの森そばの神社に見事な大藤のはなごかりを三橋町生まれの私には始めて見ておどろきました。又沖端水天宮のお祭りにも出会いました。お花の文字姫も惜しまれます。立派に人生をまっとうされたお方と拝します。

高7 浜野弘子

会報11号有難うございました。(中56)成清良孝様の顕彰広松 渉を拝読し、目からうろこでした。掘さげた人物像に感謝です。遠縁にあたり、近所に住んでいた上に妹の流美さんと同級でしたので6歳の頃から現在も交流しております。葬儀の時一番涙を流していた流美さんでした。その折には有難うございました。

高5 中村義行

東京同窓会の今後の益々のご発展と、会員各位の皆様の益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

高10 大村平人

役員の皆様、学年幹事の皆様、総会でお世話さまです。編集委員の皆様のお蔭で会報を楽しみ読ませてもらっております。

高19 森田達雄

「柳川と立花家」「藩校伝習館」の記事は興味深く読ませて頂きました。

高12 小畑妙子

編集委員の皆様方のご健闘に心より感謝

申し上げます。楽しく読ませて頂きました。
高2 石橋雅史
いつも会報をお送りいただきありがとうございます。
ございます。大変懐かしく拝読しております。

高18 十時理展
平成24年は同窓会の年智さんとお会い出来るのがたのしみです。

高46 古賀弘子
本年(23年)7月頃、福岡に引越すことになりました。同窓会の今後の発展と会員皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。

高18 松藤恵子
いつも会報を送って頂き感謝しております。とてもなつかしくて、柳川時代が思い出されます。

高3 酒井清行
7回目となった修学旅行生との交流会では、女性も加わり現役大学生、社会人、先輩で編成したグループが、うまく機能したと評価しています。生徒達から「心に残る言葉」や、感想文から、伝えたかったことがよく理解され、役に立ったと嬉しく感じています。老骨にめげず交流会への皆勤賞を狙ってガンバリます。

高4 緒方常子
会報有難うございます。なつかしく又楽しく読ませていただいて居ます。そのつどあー賛助金と思いついでの時が忘れられで、編集の方の御苦労を思えば申しわけありません。

伝習館東京同窓会決算収支報告書

平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日

単位：円

科 目	金 額	科 目	金 額
収入の部		支出の部	
普通賛助金（郵便局）	1,421,000	会報制作費一式（含発送）	984,254
普通賛助金（銀行）	45,000	資料郵送費	1,040
預金利息	8	メール便発送費	3,020
		同窓会実行委員会会議費	40,932
		伝習館名簿広告料	50,000
		伝習館同窓会名簿広告料	40,000
		名簿整理謝礼	10,000
		同窓会事務経費	22,250
		コピー代	6,208
		東京同窓会総会会費補填	137,630
		修学旅行交歓会交通費12名	12,000
		ドメイン広告料	8,400
		印字サービス料	2,100
		再発行手数料	2,000
		ホームページ費用	45,342
		為替手数料	524
当期収入	1,466,008	郵便振込手数料	32,910
前期繰越金	2,568,279	当期支出	1,398,610
内定期預金	(1,600,000)	次期繰越金	2,635,677
計	4,034,287	計	4,034,287

時期繰越金内訳

郵便預金	996,490
普通預金	40,006
定期預金	1,600,000
預り現金	△819
計	2,635,677

※ 8 頁、9 頁、10 頁については文責は全て事務局にあります。

先輩・後輩より

俳句断想

中56 成清良孝

今や俳句人口は一千万人を超えると言われる。こうなると、猫も杓子も句をひねっているイメージが浮かんでくる。

わたしも二つの句会に加入して、暇さえあれば苦吟？していることになっているが、その実、性格的に一つのことについて取り組むことができない。たいてい句会の前日になって、そそくさと作ってお茶を濁すことが多い。まじめに句作している人から見れば、まことに不埒千萬な話であろう。

俳句を作るようになったのは年齢的にかなり遅まきで、五十の手習いである。

ある雑誌の機縁で知遇？を得た藤沢閑二さんから、

「今度俳句の会をたちあげることにしたから、きみも出てきたらどうか。学校で俳句を扱うこともあるだろうから、実作の経験はきつとプラスになるよ」

と誘われた。ちなみに藤沢閑二さんは菊池寛の女婿で、文芸春秋の元専務。その頃、七十五、六歳だった。

わたしの停年までの生業は、都立高校

の国語の教員である。確かに古典では必ず『おくの細道』を扱うし、現代国語の教科書には、例外なく近代や現代の俳句が載っていた。

しかし、現代国語の教材は目くるめくように多彩で、わたしの知能水準を遥かに超える百科事典的教養人の役割を青息吐息演じなければならなかった。

従って、せいぜい五パーセントにも満たない分量の俳句に、正直言って十分に指導のエネルギーを注げなかった。つまりおぼろげな扱いに終始した。加えて、大学入試に俳句が出題されることは皆無に近かった。

二〇一〇年四月から、朝日新聞にほぼ一か月に一回、シャープな「俳句時評」を書いている高山れおな君は、現在四十三歳だが、わたしがさいごに担任したクラスにいた。

彼の俳句はメタファーを多用するユニークなもので、有数の俳句評論家としても活躍している。彼の今日あるのは、わたしの俳句の授業に対するはげしい失望感に由来するのかも知れない、などと勝手なことを考えたりしている。

俳句を実際に創作するようになったのは、かなり遅い年齢からだが、俳句についての考えは、一九四六年(昭和二十一年)十一月頃にほぼ固まっている。伝習館の四年生である。

その頃、柳河町役場の裏に、相浦という有料の私設図書館があった。八畳二間に閲覧用の細長い座卓が五、六脚並べられていた。評判の新刊書や五、六種類の雑誌が揃っており、購読料を払って読む

のである。

わたしはよく学校帰りに相浦図書館に寄り道しては、三、四時間アト・ランダムに読みあさった。そこで「世界」十一月号に載った桑原武夫の「第二芸術 現代俳句について」にぶちあたったのだ。桑原武夫の文章は格段に歯切れがよく説得力がある。それまで俳句について、まともな考えたことがなかった。頭の中はまっさらで、すっかり桑原武夫の俳句論の虜(とりこ)になった。

六十年以上経過した今読み返してみても、色褪せることなく新鮮である。特に花鳥諷詠のいわゆる伝統俳句に対して、まさにすぐれた正鵠(せいこ)を射たアンチ・テーゼだと思ふ。

加えて、桑原武夫の俳句論に強く惹かれるのは、わたしの体質も大いに与っている。

たとえば、大自然がどんなに風光明媚(めいび)であっても、通り一ぺんにしか受けとめない。二十代の頃、花は植物の生殖器である、と思うようになってから、もっぱら花より団子の志向である。

それより大都會の雑踏を見ると、心が浮き浮きしてくる。特に三十八年間の勤務年限のうち、丁度半分の十九年間で新宿の職場で過ごしたこともあって、一週間も新宿のダイナミックな雰囲気に触れないでいると、禁断症状が出る。

ちよつと古い話になるが、「朝日新聞」二〇〇六年二月二十一日号の「俳句時評」に、仁平勝氏が「俳句は自意識の表現には適さない。すなわち青年の文学ではなく、大人の文学である。恋も反逆も

重要なテーマでなく……」などと書いている。

わたしに言わせれば、仁平氏の言う「大人の文学」とは「老醜の手遊び」に過ぎない。この時、仁平氏は五十四、五歳。男盛りのはずなのに、かわいそうに異性に対してすっかり不感症になっている。さいごに最近の拙作を披露して、読者の皆さんの響きを買うことにする。

鱧に似て小骨の多き女なりき

夏痩せの腺病質に魅せらるる

髪洗ふ両肌脱ぎのど迫力

新涼や乳房するどく上向けり

倒錯のアナル・エロスや菊ひらく

虚仮威し棒立ち案山子木偶の坊

狂い咲く生臭傘寿生身魂

さいごの句は、句友から「自画像かね」と冷やかされたが、にやにや笑って「ノー・コメント」。

この句は『俳句年鑑』二〇一二年版（角川学芸出版）に、所属する句会の代表句の一つとして掲載された。

奮励努力と成果

高2 江崎正直

昭和30年、三白（砂糖、セメント、肥料（硫安））景気に沸く肥料・最大手の

東洋高圧（現・三井化学）に入社した。

学制改革が始まったばかりの昭和28年は、旧制と新制の両大学生が同時に卒業して、未就職学生が残っていたのに加えて、昭和29年卒の新制の未就職学生もいた。昭和30年は29年卒と28年卒、両年度の浪人が加わり、未曾有の就職難の年だった。日本の高度成長が始まる少し前で、就職先も少ないのが、それに拍車を掛けた。

日本が高度成長期に入る昭和30年代までは、工学部学生の就職については、各研究室の教授が受験する会社を選択する権限を握っていた。教授は学生本人の性格、能力を充分考慮して受験先の会社を決めていた。一人一社主義で、学生に複数の会社を受験する選択の自由などはなかった。

卒業研究の大学4年、私は坂井研究室を選んだ。工業物理化学専攻の研究室で

ある。この分野は、社会人になったら敬遠するから、学生のうちに多少なりとも学んでおきたかったのが選んだ理由である。世の中は皮肉なもので、社会人になって十数年してから、工業物理化学の本を出版することに相成るのだから。これに付いては後述する。

就職試験の時期が来た。私は坂井教授から

「お前は東洋高圧を受験せよ。失敗したら研究室へ戻って来い。」

と受験後のことまで配慮していただいた。

東洋高圧は入社試験を実施するに当たり、北海道から九州まで、全国450名の学生を東京に集めた。東洋高圧は優良会社だったから、東大、京大、九大などの有名大学から、日本各地の大学に至るまで、有能な学生が受験に集まった。当時はまだ交通も不便だったし、遠隔地からは、2日かかりで東京へ出てこなければならなかった。初日の第1次試験では筆記試験が行われ、大半の者が不合格となり、合格者は30名に絞られた。翌日の第2次試験では最終的に僅か17名が採用されたに過ぎなかった。

今、世の中は就職難で大騒ぎしているが、56年前の昭和30年は、今以上に苦難の時代だったのである。

幸い東洋高圧に合格することができた。教授の期待に応えることが出来た喜びと共に、難関を突破した思いで大変嬉しかった。一生を捧げるにふさわしい会

社を選んでいただいた故坂井教授には心より感謝申しあげたい。

東洋高圧（株）彦島工業所へ赴任した。

「彦島」と言うから一孤島かと思いきや、橋でつながった下関市の一部だった。工場の組織は所長（工場長）、部長、課長、係長、班長、平社員の前線がある。私は硫安の主原料になるアンモニア製造工場へ配属された。学歴尊重の会社だったから、学卒は別格扱いをされ、入社直後から班長並みに処遇された。ただし、給料は別。

4直3交代制で、統制する班長がいたから、班長は計5名だった。私も班長取り扱いを受けた。皆が私の父親とほぼ同年輩で、大正時代に入社したベテランばかりだった。この現場に学卒者は私一人だけ。班長達は学卒者に対するひがみ根性を持っており、故意に技術的なことを教えてくれなかった。班長達は暇を作っては、酒を酌み交わしながら、歌って賑わすのを好んだ。私の歌と言えば、博多で大学時代に覚えた「八百屋お七」しかなかった。毎回よく歌わされた。「あんたは、あと3年もすると、オレたちの手の届かるところへ行ってしまうから、今のうちに酒の呑み方を教えてやったい」と小さな居酒屋へ引っ張り込まれて、酔うまで飲まれた。学歴コンプレックスをいくらかでも溜飲を下げるための、班長達の息抜きの場だった。

学制改革の混乱もまだ続いていて、我々はまともな大学生らしい勉強をしないままに卒業した。入社したら学卒者は羨望の眼で見られる。それにふさわしい実力を付けねばならないと、30代の終りまで、毎晩12時まで学生時代以上に真剣に勉強した。

給料は高卒に少しプラスした程度で安いのに、班長並みに酒代其の他宴席の交際費がある。親の勧めで、24歳の若さで結婚したので、家計は苦しかった。給料は家計費で一杯だから、交際費は別に自分で捻出しなければならぬ。そこで思いついたのが、原稿料で稼ぐことである。そうは言っても会社でやっている研究は社外秘だから書くことができない。会社とは全く無関係の内容を探さねばならなかった。過去を振り返って、学生時代の卒業研究を生かすことに着目した。親しくしていたTECC社の松宮先輩から、出版社に渡りをつけてもらった。土、日も終日、会社業務の勉強と原稿書きに熱中した。会社の図書館は、幸いにも技術資料が割合に揃っていた。物理化学にテーマを見つけて、会社に無関係の原稿を書くことができた。会社の研究業務も家でやることが多いし、原稿書きも加わって、とても忙しい時期だった。

日米合弁会社の東洋CCI社が昭和41年に設立された。そちらへ出向して、下関工場内に触媒工場を建設した。

昭和42年、触媒の営業担当として東京へ転勤した。

それに先立ち、これまで3年間の原稿をまとめて、その道の大家である恩師の坂井教授に見ていただいた。

「大切に保存して置くように」といわれた。教授が、なぜ、そう言われるのか、そのときは理解できなかった。昭和42年末のことになるが、「共立出版社の者ですが、坂井教授から指示されて、原稿を貰ってくるように、と言われてきました。」

と出版社の担当者がやってきて、私の原稿が出版の運びとなった。これで「大切に保存せよ。」と言われた教授の言葉の意味が理解できた。他に例のない本になると思われたのだろう。担当者から貰った資料をみると、共立出版社が『工業物理化学シリーズ』全30巻を出版しようと言った。これが前述した世の中の奇しき縁というものである。編集委員は岡本剛(北大)、向坊隆(東大)、坂井渡(九大)、吉沢四郎(京大)といった有名大学の錚々たる大教授ばかり。シリーズの第2巻として、私の原稿を『エンタルピ・組成線図』の題名の単行本で出版しようというのだ。CCI社の大変忙しい時期と出版が重なった。

発行されたのは昭和43年8月、35歳の時である。

以下に『エンタルピ・組成線図』の本の表紙、及び4名の先生方の「刊行の言葉」を示そう。

次ページにエンタルピ・組成線図の一例として「硫酸—水系」を図示した。このころから学園紛争が猛烈に激しく

なった。昭和44年1月には東大の安田講堂が赤軍派の学生に占拠されると言う、

予想もしない事件が起きた。教官だけではどうしようもなく、遂に警察官を多数

工業物理化学シリーズ

刊行の言葉

最新の化学工業の発展はまことにめざましいものがある。これは諸科学および技術の進歩の結果であることはいままでもないが、要するに基礎学問の諸分野の成果が巧みに工業に応用されたことによる。

従って化学工業に携わる方にとって必要なことは基礎化学の知識を十分マスターするとともに、これを広い範囲に応用できる能力を完全に修得することである。

しかるに基礎科学ならびに工業の諸分野はますます広い範囲に広がりそれぞれ深さを増して、全体を把握することは容易ではなくなってきた。そこで基礎科学の知識をできるだけ整理し、つぎにこれを新しい物質やプロセスを開発するのに応用するための方法論ないしは学問を体系づけることが必要となってきた。

工業物理化学とは、このような目的に応ずる学問体系を指すが、まだ整った形にはなっていない。本シリーズはその体系を完成していくための一つの試案として提出されるものである。

編集委員

北海道大学教授・理学博士	東京大学教授・工学博士
岡本剛	向坊隆
九州大学教授・工学博士	京都大学教授・工学博士
坂井渡	吉沢四郎

工業物理化学シリーズ II-2

エンタルピ・組成線図

— 作製と使用法 —

東洋シーアイ株式会社 江崎 正直 著



共立出版株式会社

動員し、講堂に放水して学生等を追い出したほど激しいものだった。このため東大では、昭和44年の入学試験を中止せざるを得なくなった。

これに代表されるように、学生運動は全国の大学に蔓延した。このような環境だったので、執筆予定の先生方も学園紛争に巻き込まれ、集中して原稿を書く時間がなくなっただろう。30巻のうち第4巻まで、つまり4冊出版しただけで中止となったことは、返す返すも残念の一語に尽きる。全巻完成しておれば、化学の発展に大いに貢献したであろう。それが皆さんの目に触れることもなく夢物語となった。今更ながら学園紛争が憎まれる。

昭和40年後半は公害問題が全国的に浮上してきた。出向しているCCI社から本社に戻され、環境問題を担当させられた。担当テーマの一つとして工業廃水の浄化があった。通産省の造水センターからお声がかかり、産学協同研究をやることになった。テーマは東大の先生に指導を受けて、工業廃水を浄化しようと言うのである。化学工学科の木村尚史教授が指導教官になられた。学会誌を通じて名前は存じ上げていたが、面識はなかった。「初めまして」と名刺を出したら「江崎さんの名前は知っていますよ。あなたが出版された本をゼミで使わせていただきましたから。」全く予想しない言葉が返ってきた。本を出版すると、誰の目に留まるか分からないものだ。

化学物質の個々の「エンタルピ・組成線図」の作り方、使い方については、海

外で発行されている各種学会誌に散見されるが、それをまとめて単行本にしたのは、世界中で私が出版したこの本1冊だけである。個々の物質の「エンタルピ・組成線図」の使い方は優しくて便利であるが、作るにはかなり手間がかかる。

木村教授は珍しい題名のこの本を、偶然にも書店で見出し、その内容を学生達に講義したものである。苦勞して書いたこの本が東大で使用されるとは夢想だにできなかった。これまでの努力が報いられて、評価されたことは望外の喜びであった。

木村教授からは工場廃水の処理に付いて、いろんなご教示を頂き助かった。

権威ある先生方が執筆さるべきシリーズの本が、学園紛争のために、出版されなかったのは、国家的損失でもあり、返す返すも残念でならない。

造水センターで共同研究を進めていた時期は、折から日本の高度成長期に当たっていた。振り返ってみると過ぎし半世紀は、戦後の貧しさから抜け出すために死に物狂いで生きてきた。全国民があらゆる分野で前向きに取り組み、高度成長を成し遂げた。先進国の産業に追いつけ追い越せで頑張り、米国に次ぐ世界第二位の経済大国を確立することが出来た。若さと情熱と努力の賜物である。

「ゆとり教育」という教育の墮落もあって、21世紀に入り日本の国力低下が心配される。中国、韓国、印度という近隣諸国に負けない国になるよう、若者が情熱

を持って頑張ることを期待したい。
(2011年4月)

乗り物笑話

高7 田中敬之助

◆ 駅名

50年以上前の話である。現在と違って、切符を買うのは自動販売機ではなく、行き先の駅名を駅員さんに云わなければならなかった。そこで困ったのが読めない漢字である。御徒町（おかちまち）、石神井公園（しゃくじいこうえん）等が、その代表である。今の人はそれぞれ誰でも読めますよと云うかも知れない。しかし、柳川からポツと出てきた私には読めない漢字だった。

今は字が読めなくても、駅に掲げてある「切符運賃表」を見て、あそこに書いてある。160円だ。160円のボタンを押せば問題はない。Suicaを使えば漢字が読めなくても何ら問題はない。まったく便利になったものだ。

◆ 亀戸

伝習館東京同窓会幹事会の帰り道、私は先輩のKさんと途中まで一緒だった。「Kさんは、どちらにお住まいですか?」「亀戸です」「亀戸には面白い話がありますね」と云って、私は他人から聞いたことな話をした。

「ある男が酔っ払って電車に乗り、いびきをかいて寝込んでしまった。ある駅に着いた途端、パツと目が覚めた。此処は何処だ? 窓越しに見える文字は、めいど。だった。」

「あっ、しまった。冥土まで来てしまったのか。酒をいろいろチャンポンしたのがいけなかった。その男は嘆き悲しんだ。程なくして電車は扉を閉め、動きはじめた。めいど」の、め」の左側にあった。か」の字が見えてきたのだった。なんだ、亀戸だったのか。ああよかった。」と云ったとか。

後で聞いた話だが、Kさんはこの話を近所の人達にしたところ、大うけだったとか。

◆ 切符渡し間違

仕事で東北のある町へ行った。当日は町のお祭りだったらしく駅の構内は人で溢れていた。私は普通乗車券と新幹線乗車券とを渡し、通過することができた。ホテルに着いて残りの切符を確認したところ、往復の復のほうを先に渡してしまったことに気がついた。帰りもまた、切

符を買うのか？

翌日帰る時、駄目もとで、駅員さんに聞いてみた。「どうにかありませんか？」「昨日のうちに来られていたら、受取った切符は全て段ボールの中に入っていたのですがねえ。しかし、お宅の明細書(切符と同じ大きさ)を見ると、VIEWカードを使って往復を買われていますよねえ、ちよつと待って下さい。仙台支局に問合せみます。」

「明細書では確かに往復で買っておられることになっています……OKですね。」駅員さんは残っていた往の切符に簡単な説明を書き、はんこまで捺してくれた。嬉しくてたまらなかつた。親切な駅員さん、ありがとう。

◇一便遅らせたなら

羽田空港で高知行きの出発ロビーに居た時の話。

「どなたか一便遅らせることが出来る人、いらつしやいませんか？ 遅らせて貰ったら一万円返しますよ」とのアナウンスがあつた。私は何回か高知に行っていたし、一時間半ほどの遅れの次の便で、なんら問題は無かつたので、応ずることにした。

一万円受取った後に考えた。「これに乗って飛行機が落ちこちでもしたら、お前の命は一万円の価値しかないのかと笑われかねないなあ。いやいや、一便遅らせたことで助かつた、ということもあるさ。どちらも確率的には同じだよ。やはり、一万円は受け取つとこう。どう思い

ます。こんな考えの男。

◇背が高くても低くても

元宝塚トップスター真木弥生(本名…高田弥生)さんとは小・中学合わせて、3年間、同じクラスだつた。

ある時、東京の同期会に出席してくれた。「私ねえ、小学3年生の頃、西鉄の駅員さんにひどく叱られたの。あんだ、いつまで小人の切符で乗る積もりか。つて、今だつたら食つてかかるわよね。」

でも、その頃は、どこへ行つても、わあ、ふとか、わあ、ふとかつて言われていて、身長コンプレックスがあつたの。云われるままに大人の切符また買ったわよ。それ以来、ずーつと大人の切符だつたの。」

身長が高すぎても、いろいろ悩みがあつたんだなあと考えた。私の場合は、その逆である。親父とふたりでどつかに出かけた。親父は「大人1枚、小人1枚」と云つて切符を買っている。私に切符を渡された時、親父に云つた。「俺、もう中学生になつたから、もう小人の切符では駄目だよ」「よか、よか、お前はこまかけん、よか」

小さい者にも小さいなりの悩みがあるものである。でも、子供と書かず、小人と書いてあるから、まあ良いっか。

「参考」

☆真木弥生の名付け親は菊田一夫先生である。

☆月組で男役をやっていた頃の相手役

は扇千景さん、後に参議院の議長をされた方である。

☆宝塚時代、名誉あるレインボー賞を貰つておられる。

☆現在はインテリア関係の会社社長で、世界を飛び回つておられる。

賛助金の納付に 協力をしよう!

高8 樋口誠佑

伝習館東京同窓会は賛助金で運営されていることをご存知でしょうか？

賛助金と聞きますと、趣旨に賛同された方が自主的に寄付をされるもののように受け取られ勝ちですが、東京同窓会の賛助金は、実は会費なのです。

現在皆様から収めて頂いている賛助金は、毎年正月に発行される「東京同窓會会報」の作成と郵送に殆どが費やされ、他の事業を行う余裕がありません。

元々「東京同窓會会報」は、東京同窓會がスタートした時には、年2回発行を考へて居りました。しかし、現状の賛助金では年1回の発行がやっとです。

更に実情を申し上げますと、1年に4回程開催されている東京同窓會学年幹事

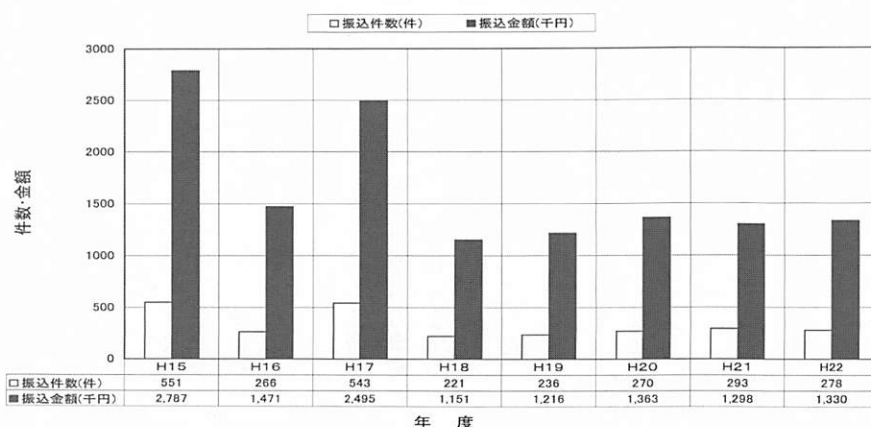
会議も、交通費や飲み物の費用は、出席する学年幹事の自己負担です。

また、後輩生徒が修学旅行で上京した際に開催している「交流会」も、現役学生に参加者に交通費を支給している外は、交通費も出席協力が負担しています。

このように賛助金の集まりが悪いため、東京同窓會は資金的に逼迫し、出費の節減に努めて居ります。

①伝習館東京同窓會(新体制)が発足し

賛助金振込件数・金額推移



て12年になります。賛助金の集まりは横這い或いは下降気味です。

②東京近県在住の同窓会会員総数は約3,000名といわれて居りますが、賛助金の協力者はその10%未満です。平成22年度の賛助金は、振込件数278件金額1,330千円で、卒業年次毎の実績は、

65歳以上(高校1回卒〜第20回卒)の定年退職者・高齢者会員が、賛助金全体の80.5%(209件、1,071千円)を納付して居ります。

一方、旧制中学校・高女など80歳以上の会員が、10.0%(33件、130千円)。

第21回卒(65歳以下)以降の現職・若手の実績は、9.5%(36件126千円)と1割未満です。…振込口数1口¥2,000。―

賛助金納付の状況から考えますと、現在の定年退職者・高齢者が更に高齢化すれば、当然賛助金の納付は減少して、東京同窓会の存続さえ危惧されます。

江崎会長は、「伝習館同窓会会報」の巻頭言で再三に亘り、賛助金への協力を、次のように訴えていらつしやいます。

第3号 《おれとお願い》

原稿と資金が必要です。…同封の振込用紙にて平成16年度の賛助金ご協力を

第5号 《会長報告》

学年幹事さんは率先して出して頂くと共に、同級生の皆さんへ呼びかけて…

第6号 《会長年頭の挨拶》

賛助金は実質年会費であり。毎年ご協力いただくようお願いいたします。

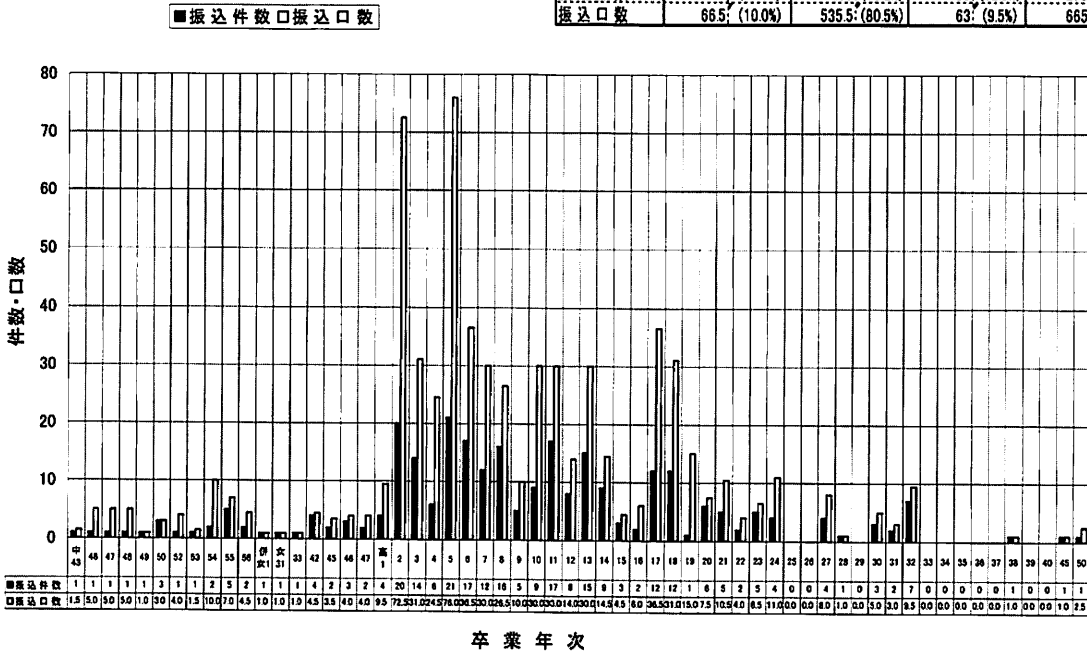
第8号 《年頭の挨拶》
10人のうち9名の方は会費未納です。第9号 《年頭の挨拶》
10名のうち9名は賛助金を納めず

報を購読…卒業生はその恩返しをする気持ちを持って…

第10号 《年頭の挨拶》
同窓会で何をやるにしても、先立つものはカネですから、皆さんのご協力を

卒業年次別賛助金ご協力状況(平成22年度)

卒業年次	中43~:(比率)	高1~20:(比率)	高21~:(比率)	合計
振込件数	33(11.9%)	209(75.2%)	36(12.9%)	278
振込口数	665(10.0%)	5355(80.5%)	63(9.5%)	665



卒業年次

第11号 《年頭挨拶》

一人でも多くの方に賛助金のご協力をお願いします。

等など、会長自らストレートに強く要望されているにも拘わらず、賛助金の納付は一向に増加せず、このまま推移しますと、運営に支障を来すのではと心配されます。

③2年に一度開催されている伝習館東京同窓会総会も、最近では250名前後の多くの会員がご集まり頂きますが、参加者のうち賛助金を納付している方は、出席者の3分の1(34.52%)に過ぎません。

平成22年伝習館東京同窓会出席者内訳(平成22年7月11日 於ホテルグランドパレス)

同窓会出席者総数	計	比率
252		
(内賛助金納付者)	87	34.52%

同窓会総会の参加費(10,000円)は、収支はトントン或いは赤字で、不足分は東京同窓会で補填しています。

【東京同窓会会員の皆様へ】

会員の皆様が1年間に賛助金を1口(2,000円)ご協力頂きますと、年間約6百万円の賛助金が集まり、現状の賛助金納付実績の約5倍となります。

2年に1度1口ご協力頂いても年間約3百万円になり、現状の約2倍の金額となります。

東京同窓会の目標として年間4百万円

の賛助金が集まれば、更に多くの活動が可能となります。

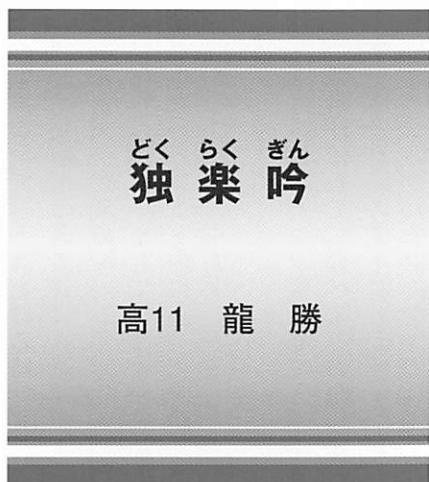
皆様が賛助金の性格を正しくご認識頂き、ご協力下されば実現可能な目標です。

是非賛助金の実情をご理解の上、ご自分の卒業年次の実績をご認識頂いて、最低年間1口(2,000円)の賛助金を、ご協力下さいますようお願い申し上げます。

そして、私たちが卒業した歴史と伝統を誇る伝習館の東京同窓会が、多くの会員の皆様の賛助金で支えられ、永続して行けるように協力をしようではありませんか。

以上

(編集委員注：文中の諸計数は執筆者の調査分析に基づくもので、その努力に深甚の敬意を表します。事務局での再チェックは行っておりません)



歌人として幕末に活躍していたという橘曙覧(たちばな あけみ・1812-68)をご存知の同窓生もおられると思います。その彼が編み出したと言われ

る『楽しみは』で始まり『××の時』で終わる独楽吟という和歌はご存知だろうか。

平成22年秋頃からニッポン放送の『朝ラジ』という平日の早朝番組で、その和歌を振って『楽しみ和歌』として取り上げり、暇にまかせて投稿した私の最初の作品が取り上げられたことで自信(?)がつき以後週に1〜2回の頻度で投稿してきました。全く相手にされなかつたり眩されたりした句もありましたが概ね大いに盛り上がりつつ読んでもらえたような気がしますので少しテンクになりながら一昨年から投稿順に半年分の一部を披露してみます。

1. 楽しみは 庭に作った 餌台のみ
かんついはむ メジロ撮る時 11月

猫の額ほどの広しい(?) 我が家の庭には晩秋になるとメジロが飛んできます。餌台を作ってみかんの輪切りをおいておくといばみにくるので名前の由来の目のふちが白くて可愛い姿を至近距離からデジカメで撮っています。

2. 楽しみは 軒に吊るした 干し柿の
味やいかにと 試食する時 12月

例年庭の柿の木に生った柿で干し柿を作りますが皮を剥く時や吊るす時も勿論楽しいですが何より出来上がり具合を確認し試食をする時は最高です。

3. 楽しみは 駅で見かけた 可愛い娘
今朝もいるかと 急ぐその時 12月

遠い昔の青春時代にあったようななかつたような……。

4. 楽しみは パソコン時代 なんのその
デザイン決めて 版画彫る時 12月
いただく年賀状のほとんどがパソコンで作成されたものなのですが私は未だに版画を彫っています。でもここ数年は心身共にきつくなってきたので簡単に仕上がるパソコンにしようかなと迷っています。

5. 楽しみは 妻と2人で 行く京都
ガイド片手に 歩くその時 1月

念願かなって京都へ行ってきました。入念に下調べをしてみたつもりでしたが何度もガイドブックと睨めっこして……でもそれも旅の楽しみの一つです。

6. 楽しみは ほろ苦味の フキノトウ
落ち葉掻き分け 探すその時 1月

南国房総では南斜面の土手に早くもフキノトウが顔を出し始めました。まだ、目を凝らさないと見落としてしまいましたが、数個見つかるかと積み取って帰ります。妻に天婦羅にでも買って早春の味覚を楽しんでいます。

7. 楽しみは 夕焼け空に 映える富士
明日も天気と 元氣出る時 2月

空気が澄んだこの時期は風が強いと当地方から東京湾越しに夕焼けの中に黒い富士がくつきりと見えます。そしてそんな日の翌日は晴れた良い天気になることが多いのです。

8. 楽しみは 3時のおやつ 桜餅も
うすぐ春を 実感する時 2月

昨日は庭仕事の途中のお茶の時間に桜餅が出ました。春はもうすぐそこまで来てるようです。

9. 楽しみは 田舎の行事 どんど焼き
天も焦げよと 燃ゆるその時 2月
どんど焼きって知ってますか? 小正月の行事として各地でこの時期に行われる火祭りです。君津市内では今でも農村部で数箇所行われています。私の地区では今月5日の土曜日に行われる予定です。

10. 楽しみは 5段飾りに つるし雛
白酒飲んで 祝うその時 3月

私の生まれ故郷の福岡県柳川市では古くから雛祭りになると各家庭でさげもん(九州弁で下げる物と言う意味)と呼ばれる吊るし雛を作って盛大に行われていました。一時すたれた時もあつたようですが最近では町おこしの一環として市街地を中心に復活してきているそうです。この時期はどんこ舟と呼ばれる舟に乗っての川下りも始まり北原白秋の生地としても知られる水郷柳川が最も華やぐ時でもありますのでリンスナーの皆さんも是非一度訪れてみて下さい。

11. 楽しみは 返って来るか 還付金
書類揃えて 出向くその時 3月
来週は確定申告に行く予定ですが還付金があると言われると嬉しいですね。

冷静に考えると納めすぎていたのが返って来るのであつてしかも利息もついてないのでちつとも嬉しい話ではない筈ですが、年金生活者にはやっぱり嬉しいです。

12・楽しみは 若者達に おだてられその気になって トス上げる時 4月

運動不足解消と若者達にエネルギーを貰わんと週一の頻度でバレーボールの練習に出かけ球拾いをしていますが参加人数が少ないとコート内に入つて一緒にプレーすることが有ります。

13・楽しみは パンツ濡らして 潮干狩り 味噌汁にして 食べるその時 4月

木更津と富津の潮干狩りがオープンしました。ついつい夢中になってお尻を濡らしてしまつたりしますが砂抜きした後味噌汁にしていただと美味しいですね。

14・楽しみは 近くに出来た レストラン 味やいかにと 扉押す時 5月

近所にイタリアンレストランがオープンしました。早速下見を兼ねて行ってみたいと思つています。

15・楽しみは 八十八夜 近づいて 八女から新茶 届くその時 5月

八女茶は佐賀県の嬉野茶と共に九州の2大ブランド茶です。毎年この時期になると八女市近くに住んでる姪っ子が新茶を送ってくれます。

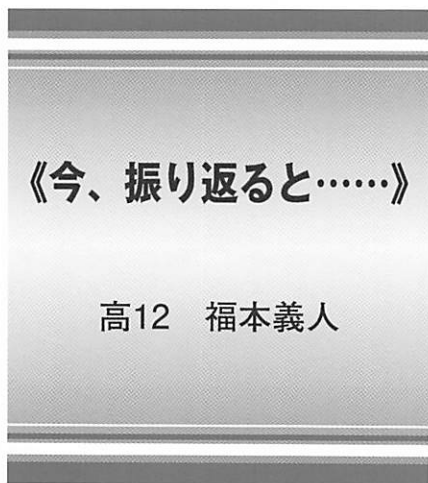
16・楽しみは 緩衝材の 地方紙に 遠い昔を 思うその時 5月

生まれ故郷の柳川やその近辺に住む親族達が折に触れ産直品や名産品等をダンボール箱で送つてくれます。中身もさることながら隙間を埋めた緩衝材代わりの地方紙を読むのも楽しみです。

17・楽しみは 顔中口の 雛ツバメ たつぷり食べて 巢立ちする時 6月

顔中が口かと思われような口を大きく開けて親鳥から餌をもらつていたツバメの雛が目増しに大きくなり巢立ち間近のようです。

朝の目覚めが早過ぎて困つてる中高年の同窓生の皆さんもAMラジオのリスナーになつて、一緒に楽しみ和歌を楽しみませんか？ 匿名での投稿も可能です。因みに私は君津市の69歳の無職の男性で通つています。



昭和35年夏——大木町木佐木小学校の校庭で、田舎モン二人(友人Mと私)が、進路について話すともなく話していた。もう高3だったのが大学についてさほど切

羽詰まっていた感じでもなかったから、なぜそういう状況になつたのか覚えていない。

「ニチゲイに行く。これからは東京ばい」Mが言った。

その頃、NHK『バス通り裏』を見て、東京の箱庭のような狭い路地裏(今考えるとそれはテレビスタジオのセットだった)に惹かれていた私は、東京への憧れを抱いていた。

「東京、ゲイジュツ系か……よかねえ！」その時、私の中でほんやりと進路が見つかったような気がした。

Mに引きずられるように日大芸術学部放送学科、押さえて東京写真短期大学(この短大が定年後勤めることになつた東京工芸大学の前身というのも不思議な因縁)の入学願書を取り寄せ、大した受験勉強もせず、とにかく入試のため東京行きの切符を得た。ところが言い出しっぺのMは、「商売人になる」と進路変更、福岡の大学の商学部を選び(Mは大学を出て宝石商の逆タマに乗り社長になりやがった)、私一人だけの東京行きとなつた。

「東京の大学？ 金はどげんすつとか？」

当然の問題が発生するも、「アルバイトするけん。受かるかどうかも分からんし……」

まあ何とかなるだろうと、羽犬塚から夜行列車に乗った。東京行きは伝習館の修学旅行以来で、唯一の頼りは中学時代の恩師・松永伍一先生だけであつた。先生は5年前に志を立てて上京、結婚もされ

て練馬区上石神井に一家を構えておられた。

その夜、図々しい受験生を快く(と思う?)自宅に泊めてくれた先生は、切り出した。

「で、芸術学部に行つて、将来、君は何をやりたいの？」

私は言葉につまる。芸術と言えば、テレビの『スチャラカ社員』『てなもんや三度笠』などのお笑い番組のイメージしかなく、とっさに「コメディアン、です！」(今ならお笑い芸人か?)

「今まで、どんな勉強したの？ どんな本、どんな小説を読んだの？」

「えつ、コメディアンに本の勉強が必要なんですか？」

「……銭湯でも行こうか？」

先生はそれ以上何も言わず、大木町にはない大きな風呂屋に案内してくれ、私は先生の細く白い背中を流してあげた。

恩師に呆れられた大学生生活は、コメディアンのコの字もなく、入学式の日に勧誘された九州同人会で夏・冬休みの養護施設などへの慰問旅行、同人会の先輩Nさん(N先輩とは6畳アパートで共同生活)が美術を担当していた『ミュージカル研究会』での裏方などの部活で人にもまれ、そして、長唄の発表会で記念の録音盤と写真を売る会社、小さな出版社の運転手などのアルバイト、そんなこんなで大学よりむしろ社会との接点が多い生活が過ぎて行つた。

3年生の時に書いたシナリオがあるコンクールに佳作入選、その時の選者で当時は人気番組『三匹の侍』のシナリオ作家・

寺田信義氏の内弟子になり、親父は息子に余り金を使わなかったせいか就職のことをアレコレ言わず放任、就活もせず、「シナリオ作家になる」と、ミュージカル研究会の先輩Tさんの中目黒のアパートに転がり込んだ。

3学年上のT先輩は、ミュージカル部の脚本、演出、振付け、主演、かつアルバイトで外国テレビ映画の翻訳までこなし、卒業後ビクターレコードでディレクターとして働きながら、ダンサー集団を抱え、テレビの歌番組で振付師として活躍していた。

シナリオ作家を目指した居候は、コンクールに向けて応募作を書きながら、時にT先輩が紹介してくれる新人歌手の作詞を手掛け、若い作曲家と習作作り、日劇のショー台本を書いたり、金もないのにパチンコを覚え、毎日が食うや食わずの居候生活約3年。

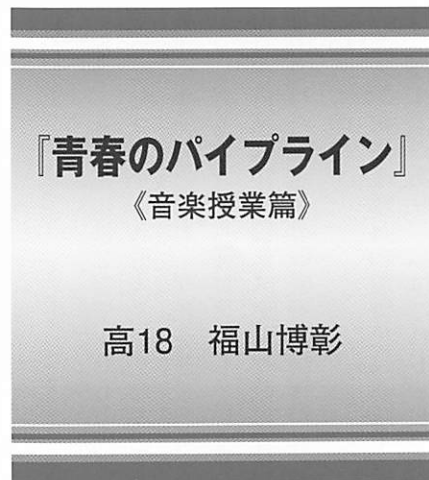
家主のT先輩はさすがに音を上げたのか、または芽の出ない後輩の将来を心配してくれたのか、自分が振付けを担当していたTBS『植木等ショー』のA・D（アシスタント・ディレクター）見習いという働き口をプロデューサーに頼み込んでくれた。

昭和43年秋、26歳——私は、遅れに遅れて、テレビの世界に踏み出した。

その頃の私にとって、進路とか将来なんてそんな風がいい加減で、行き当たりばったり、あやふやなもので、そして、そんな能天気な若者を受け入れてくれる「フトコロの深さ」が社会にも人にも、まだあった。

そんな時代に生きた幸運が、それから自分の人生を大いに助けてくれたと、今、振り返るとその思いを強くする。

終



シリーズ5回目の今回は、私が大好きだった音楽の授業の思い出です。

担当は平田先生という、芸大ピアノ科卒ですが一見とても音楽の先生とは思えないダブルの背広を着た太っちょでガマみたいな顔をした少し女っぽい人で（大変失礼）、ピアノを弾くなどとは思えない太い指でショパンを弾きました。その授業は歌唱練習、音楽理論に加え通俗音楽、即ち歌謡曲なども取り入れた変わったものでしたが、私個人は毎回拍手喝采！面白く、分かりやすく且つレベルの高いこの授業が毎週大変楽しみでした。この先生の音楽の授業のインパクトも強烈で、今でも鮮明に覚えています。

《第1章》

平田先生の授業の面白さをご紹介する前に、大変僭越ながら、まず私と音楽の関係から少しお話をします。

私は、小学校に入る前からNHKラジオの「歌のおばさん」、安西愛子さんの歌が好きで、小中学校の頃には大きくなったら音楽をやりたいと言う気持ちがありました。小学校4年生の時、家にピアノが来て妹が習い始めたので、僕も習いたいとおずおずと両親に言いましたが、父親はただひどく苦い顔のがっかりした様子で無言でした。男たるものピアノや音楽なんかやっつてどうするんだ……：将来メシが喰えないぞ、と言うのが父親の教育方針でしたから。そこで、習ってきた妹の弾き方を見たり聴いたり教わったりして練習していましたが、教則本ソナチネに進むとさすがに練習量が足りず、学校の勉強もあるので次第にピアノから離れ、音楽の夢は消えてしまいました。それで、音楽の夢は消えてしまいました。それに通うハメになり、音楽がダメなことは想定内のことでした。

《第2章》

高校2年になり芸術科目で音楽を選択した私は、ここで音楽好きの魂にまた火が点きます。そのきっかけが平田先生の面白い、興味深い授業でした。

彼の授業は歌唱練習、音楽鑑賞、音楽理論の解説など教科書に沿った教え方をしてはいましたが、クラシック音楽ガチガチの内容ではなく歌謡曲などの通俗音楽をも取り入れました。そのためこれが

異端的と批判的な声もありましたが、個人としては分かりやすく親しみがあって非常に良いと毎回拍手喝采！面白くて且つレベルの高い授業を毎週楽しんでいました。平田先生は冒頭に書いた通り、その風貌からはとても芸大ピアノ科卒という経歴は想像できませんでしたが、さすが素晴らしいテクニクの持ち主と同時に、クラシックの枠に嵌らない広く、しかも高い観点から「音楽」の言葉通り「音の楽しみ」方を教えてくれました。

その授業の具体的内容は……：音楽教科書の「おやすみ」（冬の旅）、「自然にける神々の栄光」、「平城山」などの解説、歌唱指導をする、教則本「コールユーブンゲン」で読譜力、音程など音感を磨く練習をする、「バッ・ヘン・ハイ・モー・ベ」の古典派、シューベルト、ロマン派作曲家をレコードで聴きその解説をする、「幻想即興曲」を自分で弾いて聴かせる……と、ここまでは普通の授業内容ですが、幻想即興曲の途中の有名なサビのところ*を徐々に村田秀雄の「姿三四郎」のメロディに変奏して弾く、歌曲のピアノ曲が途中で一転して演歌「浪曲子守唄」にすり替わる……、そうかと思えば、「王将」を弾いて、その音階の解説をする（ヨナ抜き音階）、沖縄民謡の音階（レ音・ラ音抜き）との比較をする、ねんねんころりよ、おころりよ……の子守唄が長調（雛旋律）且つ短調（京旋律）でも歌われる音楽的理由・背景についてなどの解説をする、美空ひばりが

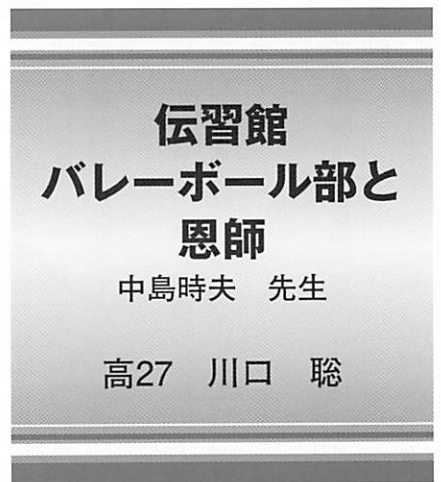
く謳われており、姿勢を正さないと歌えない威厳に満ちた雰囲気があります。

曲は、短調ヨナ抜き音階（ラの音から4番目レと7番目ソの音がないラシドミファラ）、俗に言う都節音階（ミヤコブシ、京都の洗練された音階）が使われています。音符の動きが滑らかで歌いやすく、しかも勇壮で力強く堂々とした雰囲気のある曲です。青春の内に秘めたる情熱と毅然たる決意が陰のある短調メロディにマッチした非常に印象的な曲です。元々は向学の青年男子向けに作られたものでしょうから、女生徒には多少なじみにくい感じがするかも知れません。伝統の歌として歌い継がれてもらいたい曲です。

最後に、私の大学時代はフォークソング・ブームでも私もギターの練習をしました。またビートルズ作品を音楽理論的に考察し、彼らの自然な感性、天才振りに驚きました。でも1965〜6年の平田先生の授業ではビートルズは出てきませんでした。食わず嫌いだったのか歌謡曲専門だったのでしょうか。私の卒業後に平田先生の授業を受けられた生徒の方々、即ちOBの皆様、ビートルズが授業で出てきたかどうかを教えてください。

天国の平田先生、ビートルズの作品は『逆説的』音楽理論の宝庫で、授業に格好の材料です。私なら演歌でなく、ビートルズを題材に音楽の授業を進めたいと思います。

以上



「白雲なびく雲仙の 山崇高の精をとり 蛟龍ひそむ有明の 海雄大の気をうけて ここ清境の学び舎に 齢は移る幾春秋……」

九州大会や全国大会の帰路で、恩師中島時夫先生と幾度となく歌った記憶が脳裏に蘇ります。

昭和24年に三井工業学校から伝習館高校へ赴任され、自らも教職員チームの中心選手として、バレーボール部員とともに昭和51年に大川工業高校へ転任されるまで輝かしい戦績を残されました。

福岡県バレーボール協会創立50周年記念誌より、その戦績を拾い上げたいのですが、一部分だけの掲載になることをお許し願います。

昭和27年 第7回国民体育大会（山形市営コート）高校男子 決勝戦の概要を記念誌より

藤沢（24・22、24・22）伝習館

前衛 中村一広、石川 勉、木下和夫

中衛 城島 明、副島敏治、木下清爾

後衛 野田久人、中野清利、高須恭次

竜 昌生、古賀耕造、佐藤 孝

1セット決勝戦は冷雨漸くあがるも暗雲猶たこめた2時開始、伝習館滑り出しよく中衛両翼の攻撃に藤沢陣をゆさぶれば藤沢は前衛にて応戦するも凡失多く固くなり、11対4とリード、伝習館セットをとるかに見えたが藤沢攻撃を中衛に切りかえ特にH.L.田中のシャープな攻撃がよく決まりついに18対18の同点となる。伝習館奮起して20対19とリードしFCよりH.L.木下へ絶好のトス流れてよく打ち伝習館1セットをものにしたと思われたがトス僅かにネットに入ってジュースとなり、伝習館尚チャンスを抑むも功を焦って24対22と藤沢の逆転勝となる。

2セット、始めから3対3、6対6、



前列向かって右から二人目、中島先生

13対13と1点を争う熱戦となる。伝習館はH.L.木下の豪放な攻撃と中村の捻ったタッチで加点し、藤沢は長身FL沼上のタッチで釣りH.L.田中のシャープな攻撃が奏功して20対19とリードした。この時藤沢のFLのホールディングにジュースとなり美技続出して満場をうならせたが、藤沢H.L.田中の攻撃に24対22とどめをさす。けだし両チームの技術は全く伯仲藤沢の豪球のあとに続く軟球の巧みさが勝敗を決定したともいえるし、又セット終わりの逃げ込みの研究不足が伝習館に禍したとも考えられる。

同年 女子 第5回 全九州高等学校バレーボール 決勝戦

伝習館（21・17、30・28）熊本第一

前衛 梅崎雪枝、大塚慶子、松藤寿子

中衛 野林久代、金子博子、二候照代

後衛 野田澄江、牟田俊子、金子照代

益田照子、徳永広枝、中村智子

両チームとも凡ミス多くわずかに伝習のサーブ力が熊本に勝っていたのが勝因だった。

生徒の進学、就職等指導も 福岡県庁、三井田川、住友金属小倉、専売福岡日炭高松、安川電機、九州電力等の実業団チームへと数多く送り出された。

次に昭和30年 全日本高校男子選手権大会（姫路市中央公園コート）9人制の概要を

準々決勝 伝習館（21・18、15・21、

21・14）熊本工

後衛 益田 豊、金子厚生、田中克和、金子健一郎

1セットは、オールラウンドを誇る伝習館の攻撃に会い、熊本はHし吉本を活躍させる暇もなく敗れた。2セット、熊本は緒戦よりHし吉本に打たせサーブもよく入り、11対4でコートをとる。

守備もよく、伝習館の凡失で16対10、そのまま15点で押し切る。3セット、伝習館最初よりファイトを出し、FL長岡、HL野田を起用、7対3とリードするが熊本あせってか守備凡失多く吉本のオープン起用をねらったがトスが思うように上がらない。

後半、16対13と伝習館リードのあと、宮川のサーブよく決まって3連続得点をあげ、19対14そのまま押し切った。

準決勝 琴ヶ丘 (21-12、21-14) 伝習館

立ち上がり琴のサーブの急襲に会い、琴のペースに巻き込まれた伝習は、FL深川の攻撃で攪乱され、1セット前半、4対11。後半も琴FL深川ますます快調であるに反し伝習は後半反撃の気力なく、一方的ゲームとなった。2セット、琴の出だしよく、FL深川ワンマン攻撃でリード。伝習は前セット同様反撃のチャンスも作り出せぬままに押し切られた。伝習の敗因は深川をマークできなかつた点にあるが、オープンから、琴のバック両サイドを深く突いたら、もっと食い込めたらう。

前衛 桜木武彦、梅崎省二、長岡毅二
中衛 宮川武治、北島嘉徳、野田末雄、木下 優

次に昭和36年 第16回国民体育大会 (秋田県鷹巣町) 高校男子9人制の概要を

準々決勝 伝習館 (21-15、21-16) 坂井高

準決勝 岡山東 (21-13、21-13) 伝習館

前衛 待鳥 穰、甲斐田清一、平野久夫

中衛 堤 重光、垣沼 亨、岡 保典
後衛 吉川年行、木原 昇、熊丸哲夫、北島 出

伝習館は生徒の就職やら何やらで国体には十分の力がかけられないと聞いていたが、FR待鳥(179cm)を盛り上げるチーム力が一本筋のはいっているものを感じた。その根幹をなすものは、レシーブだろう。ライトを使うべく十分に練習を積んだボール回しは、相手によってどうという波はない。常にコンスタントに力を発揮させるのだが、残念なことに局面を逆転させるだけの力には乏しい。地味ながら福岡のチームらしいケレン味のない着実な力を持っている。

次に昭和41年 全日本高等学校男子選手権大会 (青森県八戸市立体育館) の概要を

準々決勝 伝習館 (15-3、15-5)

藤沢

準決勝 崇徳 (15-5、15-7) 伝習

6人制 小川量平、古川 優、亀山保博、瀬口修一、原 寛、北島 伝、荒巻一矢

伝習館高校「ベスト4」は久々の登場である。昭和36年の福島でのインターハイで、優勝候補の崇徳を破ってベスト4入りして以来だから、5年ぶりである。もちろん6人制に変わってからは初めて。見事なカムバックである。だが、前半戦のときは決してよくはなかった。予選では安田学園の早い攻撃にかき回されて敗れているし、決勝でも第一発目の対上田戦では、上田に執拗に食い下がられてフルセットの末、ようやくとの逆転勝ち、伝習館らしい試合ぶりを見せてくれたのは、大会3日目の対都島工戦あたりから。

スロースターターなのかも知れない。ところが都島工を5点と8点で一蹴してから、俄然その本領を発揮し出した。だいたい福岡県は、この伝習館を筆頭に大濠、博多、直方といった強豪がひしめき合っているところ。代表権争いの激しい県である。

だから、前半戦のできが伝習館のすべでだとは思っていなかったが、対藤沢戦で見せたファイト溢れるゲーム展開はちよつと予想できなかった。

対藤沢戦は完勝である。春に岐阜で行われた高校男子合同練習会では、藤沢から1点と6点しかとれなかった。それが今回は3点と5点しか与えないストレート勝ち。

勝利の因は、エース瀬口に頼らず持てる速攻、時間差攻撃など全部をくまなく使ったこと。というのもブロックがよかつたためだ。藤沢が、藤沢らしからぬ実に単調な攻め一本できたことも幸いしてよく止めた。そして苦しまぎれに藤沢がフェイントを多用すると、それを待っていて速攻で攻める。理想的な形であった。加えて、凡ミスがゼロに近かつたのも大きい。

「藤沢に借りがあったが、これで一応返すことができた。9人制と6人制の違いはあるが」(注、借りというのは、昭和27年山形国体の決勝で藤沢と対戦し、24-22、24-22の大接戦を演じながら惜敗を喫したことをさす)と中島監督が試合後語っていたことから、今回の対藤沢戦は「14年前の雪辱戦」だったのかもしれない。

今年12月に 中島時夫 先生の十七回忌が行われます。

鉄棒で大車輪の演技を披露されたり、言葉がよく聞き取れなくて、たとえばコート整備のために「ホースをもってこい」と言われたのに「箒を持って行った」先輩方は、そんなことで、よく殴られたとか、思い出話を聞いたことがありました。

伝習館高校バレーボール部の記録を記念誌から初めて拾い上げましたが、身震いがする程の感動と連綿と引き継がれた歴史を体全体で感じました。

凄いの一言です。中島先生をOB達は「おやじ」と呼びます。本当のおやじとバレーボールのおやじと二人のおやじを持たれたことに私自身も感謝したいと思えます。

柳川市バレーボール協会会長として30年前に設立された協会を先生の意志を受け継ぎママさん、青年バレーボールの全国大会出場を契機に昨年は、小学生男子が全国大会へ出場し、ベスト16、西日本広島大会では優勝しました。底辺拡大のジュニアからもう一度地域バレーの活性化を目指し、少しずつ前進していきたいと考えています。

東京同窓会の会報誌に寄稿させていただくことを大変光栄に存じます。

最後に、ソウルオリンピックに出場した笠間祐治君が最後の教え子というのも縁を感じます。

平成23年10月吉日

柳川市バレーボール協会 第5代目
会長 川口 聡 (高校27回卒)

続・バレーボール部 余談

高14 高木節子

前掲、川口さんからのご投稿は、同じバレーボール部の同期の徳永静子さんの紹介により、私からも無理を言いつて書いてもらったものです。

残念ながら私達女子バレー部が国体に出場したことが書いてありませんので、補足させて頂きます。

昭和37年第17回国民体育大会の岡山・津山での女子バレーは初めての6人制バレーボールの大会で、伝習館も代表として出場しました。メンバーは

キャプテン徳川静子・川村カズ子、河野スエ子、江口清香、井上三枝子、江口佳津代、堤節子、久富照子、堀田初美(以上14回生)。それに15回生の中村智子、平木タキ子、田中久子、熊本信子の皆さんでした。

以上
(以上二編に記載された日時・氏名・場所等の内容につきましては出典との再チェックは行っておりません。執筆者の原稿通りと致しました。——編集委員)

学年だより

首都圏「高一会」開催

高2 小野善睦

平成二十三年五月十三日(金)、さいたま市浦和ロイヤルパインズホテルに於きまして開催されました。出席者は次の23名でした。

代表幹事・松尾哲夫君、幹事・徳安朔子さん、上河京子さんでした。大変お世話になりました。

出席者は次の各君です。

池田国彦・石川栄三郎・石崎知見
石橋慶孝・江頭孝夫・江崎正直
大橋貞夫・小野善睦・北原大董
古賀苦住・添島幸雄・堤 正義
平河 智・増田則久・松尾哲夫
諸藤繁樹・山下 武・吉川良平
一力貞子・上河京子・徳安朔子
九州から
近藤正一・長岡哲郎

○2次会のカラオケ大会も参加者十五名と盛り上がりました。(特に名を秘す!)

ふくの会

高5 近藤正彦

五回卒の関東地区同期会「ふくの会」

を十月二十四日に帝国ホテルで行いました。

九州から田中登起夫君、大津寿々子さん、諸藤仁子さん、大阪から逸見猷二君がみえ三十三名の参加者でにぎわいました。

金納和市君と田尻充子さんの世話で、松尾久子さんと家人千恵子さんの受付で始まりしました。近況報告は「孫が最高にかわいい」「妻を失い大変な日々になった」「夫婦でフィットネスクラブに通って体力づくりをしている」「アメリカ、イストラエルへ海外旅行を計画している」「永年住んだマレーシャから妻の元へ引きあげる」などの話がありました。



平成23年10月24日 於 帝国ホテル ふくの会

二次会は皇居のみえるラウンジでしっかりおしゃべりして水産堂の貝柱と海茸の粕漬をみやげに帰路につきました。六月の「お花」での喜寿同期会はこれで最後にして、これから地区が続けていくようにと金一封を頂戴しました。「ふくの会」はこれからも毎年続けていきます。次回は、七組が当番でよろしくお願ひします。

第8回(昭和32年)卒同級会開催

高8 樋口誠佑

平成23年11月6日(日曜日)午後1時から三菱養和会「バルテール」(豊島区巢鴨)で第8回(昭和32年)卒同級会を2年振りに開催しました。

故郷柳川近と福岡市から7名、岡崎市、豊橋市からも各1名が参加して合計40名、近來にない多数の参加者で賑わいました。(参加者名後記)

初めて参加した人や久しぶりの人などお互いの再会を喜び、昔話から近況・健康・家族のことなど幾つも話の輪が咲いて、笑い声が絶えませんでした。

関東地方には63名の同級生が在住して居りますが、年を取るにつれ懐かしさと絆が深まって行くように思えます。

午後3時30分2年後の再会と健康を誓い、円陣を組んで旧校歌・準校歌を斉唱しお開きとしました。

その後皆で巢鴨駅近くの通称「お婆ち



伝習館高等学校第8回(昭和32年)卒同級会(於巢鴨「バルテール」H23.11.06)

やんの原宿」へ、そぞろ歩きで下町情緒を味わいながら、「とげ抜き地蔵」にお参りをしました。

再び巢鴨駅側まで引き返し、居酒屋(白木屋)のテーブル座敷で二次会となり、大いに明日からの英気を養いました。

今回も母校から「伝習館だより」を取り寄せたほか、柳川市役所の総務部と観光課から、刊行物(柳川百選、立花 宗茂、ガイドブックやマップなど)を送って貰い、参加者に配布しましたが、知らなかった話や懐かしい写真、今の柳川の様子など、見応えのある内容で好評でした。

参加者名(敬称略、カッコ内は旧姓)

【群馬県】池上藤則

【茨城県】本木寅三郎

【千葉県】市川玲子(本島)、岩井治子(福

山)、後藤 亨、豊島黎子(稲光)、樋口誠佑

【埼玉県】永倉正彦、村岡ハルノ(中山)、与田芳樹

【東京都】池田孝人、一色康子(田中)、石貫タツ子(阿志賀)、内田

由美子(藤丸)、甲斐田義春、川口 融、桜澤寛子(板見)、

田代桂子(大旗)、中川辰之輔、中村清美、濱野礼子(篠崎)

【神奈川県】大村泰生、川原通司、古賀

庸子(黒田)、堺 八郎、嶋本幸子(目野)、高石順子(高

田)、田中克和、津留京子(内田)、松本登四男、與田武久

【愛知県】井上普富、吉開健二

【福岡県】池田繁造、江崎 淳、大江ひろみ(原尻)、大津宗起、北

原 巖、竹下 学、宮崎道子(藤丸) 以上40名

高十二回生同期会

「第28回くっぞこ会」開催

高12 小野あけみ

十月三十日(日) 十二時より三時迄 新宿センタービルDINING T 53Fにて三十一名出席で開催されました。

当日ご都合が悪く出席出来なかった方達に写真と共に一言がありますので誌上をおかりしてお知らせ致します。



みな様

先日は「第28回くつぞこ会」にご出席いただきありがとうございます。今回もみな様が楽しいひと時を過ごせたと確信しております。

恒例の記念撮影ですが、カメラマンが酔っぱらっていて「ハイチーズ」の声が届かず、全員カメラ目線のものがありました。

同封の写真で、なにとぞご容赦くださいますようお願い申し上げます。

なお、同席で次回以降についていくつかご意見がありました。多くのみな様が満70歳になる来年の開催、期日は日曜にこだわらず土曜や平日の午後、会費をな



「オリフ畑の巻」50 F

綿貫直諒油絵展

十月二十九日柳川・北斗星で綿貫さんを囲み14回卒同期会98名の参加で盛大に開催されました。

高14回柳川での同期会開催
高14 高木節子

次回はこちらを踏まえてご案内を差し上げるつもりです。その際は、どうぞよろしくお願いいたします。

くつぞこ会幹事一同
野田幸治 文

るべく安く、などなどです。



カワセミ
—久し振りにカワセミが良く撮れました—

母校だより

平成23年3月進路実績 ()内の数字は合格者人数

国公立大学合格者 140名

東京大 (1)	名古屋大 (2)
神戸大 (2)	九州大 (20)
筑波大 (1)	千葉大 (1)
東京農工大 (1)	横浜国立大 (2)
奈良女子大 (1)	広島大 (3)
山口大 (5)	九州工業大 (9)
福岡教育大 (9)	佐賀大 (26)
長崎大 (12)	熊本大 (14)
大分大 (2)	宮崎大 (1)
鹿児島大 (4)	京都府立大 (1)
北九州市立大 (8)	福岡女子大 (6)

など

準大学校合格者 15名

防衛大学校 (14)	〈1次合格者 78名〉
水産大学校 (1)	

私立大学合格者 381名

早稲田大 (5)	慶応大 (2)
上智大 (1)	青山学院大 (5)
明治大 (7)	中央大 (4)
法政大 (6)	東京理科大 (3)
同志社大 (16)	立命館大 (29)
関西大 (3)	関西学院大 (5)
西南学院大 (72)	福岡大 (93)

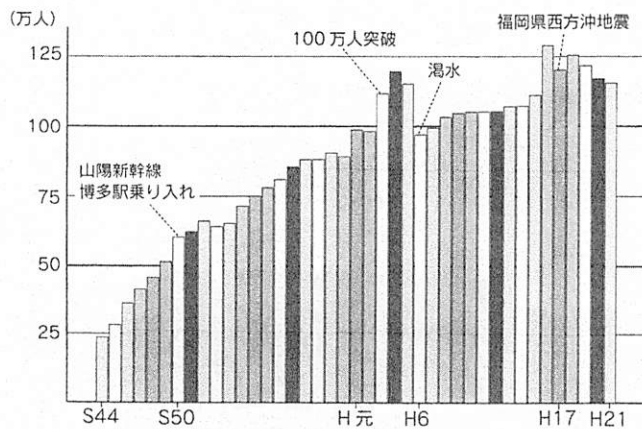
など

公務員合格者 6名

国家Ⅲ種 (1)	福岡市役所 (1)
福岡県警 (1)	福岡県警察事務 (1)
海上保安(特別) (1)	
陸上自衛隊看護学生 (1)	

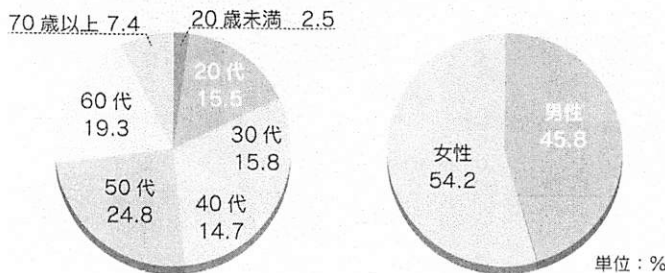
ふるさと瓦版

■柳川を訪れる お客様の数 100万人を超えているが、やや減少傾向に

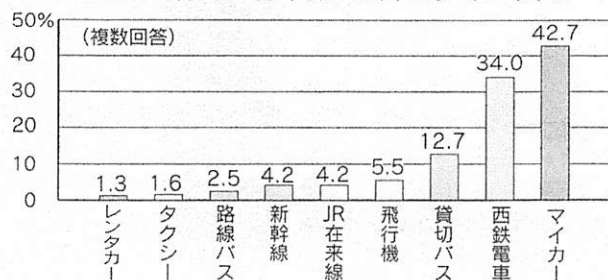


グラフは、白秋生家が復元された翌年の、昭和44年から平成21年までの観光客の推計入り込み客数です。ただし1市2町による合併が行われた平成17年より前の値は、旧柳川市だけの数字です。柳川を訪れるお客様の数は順調に伸び続け、平成3年、はじめて100万人を突破しました。平成6年、濁水により大幅に客足が減少します。その後、緩やかに回復。最近はやや減少傾向にありますが、依然として100万人以上を維持しています。

■どのようなお客様が訪れている 半数以上は女性で50歳以上が多い



■柳川までの交通手段 マイカー利用が約半数 意外に少ない貸切バス



データでみる

柳川の観光事情

お客様はどのような人たちで何を目的に来て
どう感じているのでしょうか。



どのようなお客様が柳川を訪れ、どのように感じられたのか、市が平成20年度に実施した『柳川市観光客動態調査』の主なデータを見ながら考えてみます。

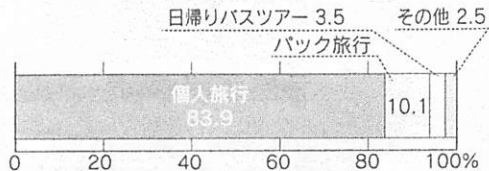
なお、「柳川を訪れるお客様の数」は、市が独自に集計した『観光客入り込み客数調べ』による推計値を採用しています。

観光柳川

住んでよし、
訪れてよいまちづくり

旅行の形態

お客様のほとんどが個人旅行



お客様のほとんどが個人客です。さらに細かい分析を見ると家族旅行が6割以上を占めています。

柳川を訪れた回数

案外多いリピーター 2回以上が約6割



柳川を2回以上訪問する、いわゆるリピーターの割合は全体のおよそ6割です。福岡都市圏からのお客様が多いことから、再訪率も高いようです。

まとめ

データを見ると、柳川の観光は福岡都市圏の50歳以上の個人客に支えられているのがわかります。人口240万人を擁する九州最大の消費地を背景にした、本市の地理的なメリットが反映されているようです。家族と気軽に行ける観光地として認められており、このことが再訪率の高さに表れています。

観光の目的は、川下りと食事、さげもんなどのイベントの見物に集中しており、それ以外の要素は低調でした。柳川を訪れるお客様のほとんどは日帰り客で、滞在時間が短いのが特徴です。川下りとウナギ以外にお客様が魅力的と感じ、滞在時間を少しでも延ばす仕組み作りが今後の課題です。

柳川に関するお客様の不満は、それほど多くありません。しかし自家用車や西鉄電車を利用するお客様が多いにもかかわらず、駐車場や案内表示が不十分という、ニーズに対する整備の遅れに不満が寄せられています。また掘割の汚れを指摘する声も多いようです。掘割を巡る水をきれいにすることは、私たちの生活環境を良くすることです。見た目の美しさだけでなく、農業や漁業にもメリットをもたらします。地域全体で取り組むべき課題だと言えます。

お客様はどこから来ている

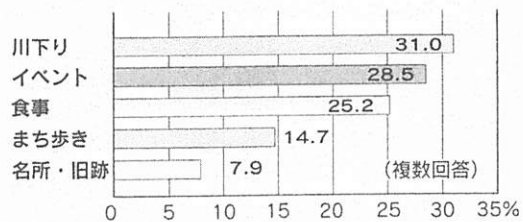
半分以上が県内 最多は福岡市



柳川を訪れるお客様の半数以上は県内からです。さらにその7割近くが福岡都市圏からのお客様。九州・沖縄圏外からのお客様は全体の27.8%で、そのうちの4割以上が関東地方からのお客様です。

柳川観光の目的(上位5つ)

やはり多い「川下り」と「ウナギ」



お客様はどう感じた

満足度50%以上は食事とおもてなし

満足度ベスト3

- 1位 食事 (59.2%)
- 2位 観光施設・まちの人のもてなし (54.2%)
- 3位 観光施設やその内容 (42.6%)

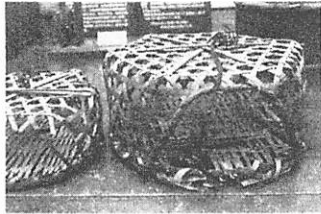
不満足ワースト3

- 1位 駐車場 (13.6%)
- 2位 市内の案内表示 (9.4%)
- 3位 掘割の汚れ (6.9%)

(複数回答)

紹介

ご承知の方も多いか
と思いますが、読売
新聞朝刊に連載され
ました。
故郷をよんだ白秋の
短歌七首です。



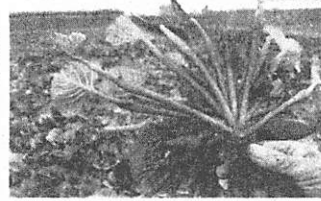
籠飼(福岡・柳川市
の北原白秋生家で)

南風すずし籠飼あげをる舟わきをわが舟にして
声はかけつつ
北原白秋

四季 長谷川 權

北原白秋は有明海にのぞむ水郷柳川で生まれた。詩人が故郷をよんだ短歌七首を紹介する。水路をゆく舟に乗っている気分。籠飼とは魚をとるための竹籠。鱈籠飼、鰻籠飼などがある。川底に沈めておき、ころを見計らって引きあげる。

2011.10.1



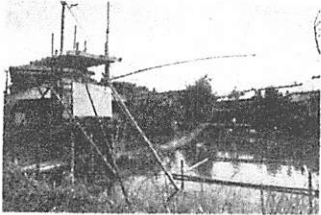
菱の実
(福岡県大木町で)

菱売は久留米餅の筒袖に手も脛も黒く菱やと
ふれ来る
北原白秋

四季 長谷川 權

水路には菱が生える。菱には実がなる。その実をつんで菱売りの女が町を売ってまわる。白秋が子どものころと同じように。「ふれ来る」は「菱や菱や」と声を上げて売って歩くこと。久留米餅の作業着からのぞく手足が黒く日に焼けている。

2011.10.3



蜘蛛手の棚
(柳川市で)

この川やまだ張りすてて露はなる蜘蛛手の棚も
よき月夜なり
北原白秋

四季 長谷川 權

蜘蛛手とは四手網。竹をさし渡して網を張ったもの。柳川を流れる川の河口付近には蜘蛛手をかけた木組みの棚がいくつも建っている。棚に登って蜘蛛手を川に沈めて魚や鱈をとる。棚とはこの棚のことだ。月があたりを照らしている。

2011.10.5



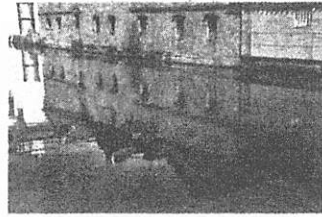
土の鳩笛(福岡・
柳川市の蒲池で)

過ぎし日の幼な遊びの土の鳩吹きて鳴らさな月
のあかりに
北原白秋

四季 長谷川 權

ここによまれているのは土の鳩笛。月の光のなかで子どもころに戻って吹いてみようというのだ。幼い日を素直に懐かしむことができる。故郷を愛することが出来る。誰にでもできそうだが実際は難しい。白秋はそれが出来る人だった。

2011.10.7



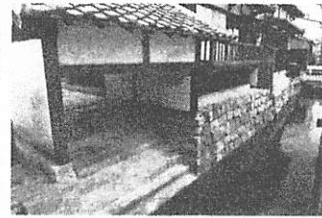
並倉(福岡・柳川市で)

橋ぎはの醤油竝倉西日さし水路は埋む台湾藻
の花
北原白秋

四季 長谷川 權

台湾藻、ウオーターヒヤシンスとは布袋菜のことである。台湾小葱ともいう。水に浮いて群生し、薄紫のヒヤシンスのような花を咲かせる。舟を進めてゆくと、行く手をはばむように咲き広がっているのだ。夢みるように水に揺れながら。

2011.10.2



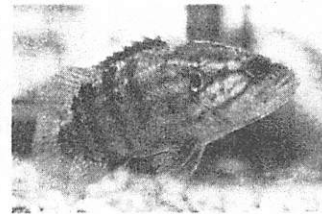
汲水場
(北原白秋生家で)

つかかむ乙の女童影揺れてまだ寝起らし朝
の汲水場に
北原白秋

四季 長谷川 權

家々には水路へおりる石段がある。石段の下は洗い場であり船着き場になっている。そこが汲水場と呼ばれるところ。朝、起きたばかりの女の子が何をしにきたのだろうか、かがむ姿が水に映っている。「乙の女童」は末の女の子の意味。

2011.10.4



水くり清兵衛
(柳川市の蒲池で)

お堀には蜘蛛手の棚の影映り早やすずしもよ水
くり清兵衛
北原白秋

四季 長谷川 權

柳川の水路には水くり清兵衛がいる。オヤニラミという小魚をそう呼ぶのだそう。何やら清兵衛の人を思わせる愉快な名前だ。怨みがましいオヤニラミなどよりはずっとよい。その清兵衛さんの棲む堀割に蜘蛛手の棚の影が揺れている。

2011.10.6

市長の

ひとりごと

大川市長
植木 光治

ロシア ー性善説についてー

ノモンハン事変で日ソが緊張していた昭和14年12月12日、ソ連の大型漁船が北海道根室沖で遭難します。インディギルカ号事件。

北洋の漁場からウラジオストックへの帰航の途中、おりからの暴風雪で座礁し転覆しました。身を裂く極寒のなか、根室猿払村の人々による必死の救助活動がはじまります。

大荒れの海に身の危険をかえりみず、乗組員とその家族を次々にすくいあげ必死の救護が続きます。

火にも当たれないほど衰弱した子供には、着ているものを脱ぎ自らの体のぬくもりで冷え切った体をあたためました。

精気をとりました船員達は、わが子わが妻が助かったことに感謝し村人に向かって手をあわせたと云います。

それからわずか6年後の昭和20年8月9日の未明、ソ連は日ソ不可侵条約を踏みにじるようにして旧満州に攻め入りました。

8月15日以降も攻撃の手をゆるめず、北方領土を含めて領土的野心をたっぷりと満したのです。

満州の原野ではソ連兵による日本人開拓民への虐殺、暴行、略奪は筆舌の範囲をはるかに超えていたと言われていました。

満州にあった設備・機械はことごとく持ち去り、あまつさえ数十万の日本軍将兵を許ってシベリアへ連行しました。

強制労働と劣悪な環境のなか屈強な兵士達はわずか二年で数万人が、シベリアの土になったのです。

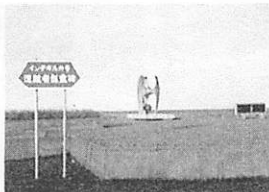
ソ連は日本人がもっとも忌み嫌い、もっとも卑劣な行為とする火事場泥棒をはたらいたうえ、多くの将兵を死にいたらしめました。

かつて日露戦争のおり、松山の捕虜収容所ではロシア兵をお遍路さんのようにあつかい、不幸にも故国に帰れなかったロシア兵は、松山の寺に手厚く扱われています。

今その墓守を続ける松山市やインディギルカ号を救助した猿払村のことをロシアの人たちは知っているでしょうか。

ロシアによる北方領土の実効支配がいよいよ強まっています。

「人の性は本来善なるもの」、ロシアの人々のこともそう信じたいものです。



インディギルカ号遭難者慰霊碑

▲「市報おおかわ」23年3月号・11月号より
植木光治市長は伝習館高18回卒です

市長の

ひとりごと

大川市長
植木 光治

八百万の神々 ー神となった人々ー

かつての日本人は自らの命を賭して人々につくす、そのような人格に神性を見ていたようです。

神として祀られるのは歴史に名のある英雄、豪傑が多いのですが、ふつうの庶民が神となった例もたくさんあります。

前者の例では安倍晴明や平将門、そして豊臣秀吉、徳川家康、日露戦争の乃木將軍や東郷元帥などが有名です。

下総、(今の千葉県)佐倉の惣五郎という人は、農民の窮状をすくべく、文字どおり命を賭して幕府へ直訴します。当時、直訴はご法度であり、その罪は打ち首獄門と相場が決まっていた。

佐倉藩の悪政をあらためさせ民百姓をすくう手だては、幕府への直訴によってしかないと心に定めて直訴におよびます。

当時の幕府は中央政府として健全に機能していたでしょう、佐倉藩の藩政をつぶさに吟味し、その悪しき部分を匡って佐倉の民人をすくいました。

自らの命と引き替えに民百姓をすくった惣五郎に、人々は神性を見て神として祀りました。

佐賀県の肥前町には、若き巡査が神として祀られています。明治28年と云いますから、ちょうど日清戦争が終わったところでのことです。赴任地の肥前高串地区にコレラが蔓延しました。

誠実で行動力ある増田という若き巡査は、防疫指導に病人の看護にと奔走し、村人が気味悪がって近づかない病遺体を背負っては、川向こうに運んで埋葬する。文字どおり昼夜をわかたぬ働きぶりだったといえます。

過労がたたったのでしょうか、赴任して三日目に自らがコレラを発します。死を悟った増田巡査は、いまわのきわで「高串のコレラは私が背負って行きます」と言って亡くなりました。享年25歳。

すると不思議なことに高串ではコレラの蔓延がびたりと止み、驚いた村人は本当に増田さまが背負って行ってくれたと感謝し、神として祀りました。

いま日本では、神として祀られるような人もいなくなっただし、祀る人々もいなくなりましたが、はたして喜ぶべきことかどうか複雑な思いが致します。

～最近の出来事から～

Flash Back

▶ 「市報おかわ」 23年11月号より



大関昇進を報告に来庁した琴奨菊関

祝! 大関昇進

琴奨菊関

10月14日、琴奨菊関(佐渡ヶ嶽部屋)が植木市長を訪ね、大関昇進を報告しました。
琴奨菊関は、九月場所所で横綱を破るなど12勝の好成績を挙げ、日本大相撲協会は、満場一致で大関への昇進を決定しました。
同部屋(千葉県松戸市)で行われた伝達式では、「大関の地位を汚さぬように、万理一空(ばんりいつくう)の境地を求めて日々努力精進いたします」とよどみなく口上を述べられました。
植木市長は、「大関の活躍と綱取りを願う、大川の地から応援しています」と激励しました。



最優秀賞 写真右側=民謡部門 松尾七郎さん(宗像市)
左側=一般歌謡部門 龍千代美さん(大川市)



優秀賞 写真右側=民謡部門 有田伊津美さん(宮崎県宮崎市)
中央=一般歌謡部門 大坪慎太郎さん・知佳さん(久留米市)
左側=古賀メロディー部門 前川いえ美さん(山口県岩国市)

歌い継がれるメロディー

古賀政男記念大川音楽祭

3月6日、市文化センターで第29回古賀政男記念「大川音楽祭」が開催されました。
五歳から八十八歳までの総数九百八曲の応募があり、市内からは一般歌謡部門に古川信也さん、龍千代美さん、古賀メロディー部門に大石ゆかりさんが本選に出場しました。
オープニングでは古賀メロディーギターアンサンブルが古賀メロディー四曲を演奏。つぎに民謡一般歌謡・古賀メロディーの三部門で予選を通過した三十人がステージで熱唱し、観客から大きな拍手を浴びました。
ゲストステージでは岡千秋さんと西尾夕紀さんが出演し、音楽祭をさらに盛り上げました。

▲ 「市報おかわ」 23年4月号より

在郷武士の住宅 綿貫家住宅

わたぬき

三橋町五拾町にある西光寺（浄土真宗本願寺派）の南西方向、細い道の突き当たりには綿貫家住宅は建つ。当家からは、明治14年（1881）に警視副総監に就き、その後、元老院議官を務めた綿貫吉直が出てくる。

吉直こと敬太郎は、この地で天保2年（1831）に生まれる。綿貫敬太郎の名前を『柳河藩立花家分限帳』所収の資料で探すと、例えば、「元治元年分限帳」（1864）には「組廻御書院番」の中に「七人扶持拾石 綿貫敬太郎」がみえる。

ところで、住宅は江戸後期の建設と考えられる。明治前半の増築をはじめ、これまで改修が行われてきたが、当初の状態を良好にとどめている。

屋根には鉄板を被せているが、付近では数少ない茅葺である。その屋根は、東西棟の部分とその東端部から南へし字に棟を出した角屋で構成され、四方に瓦葺の下屋を廻す。南を正面とし、西側に土間を通す。それに面して茶の間と3畳大の板間がある。南側に

■ 問い合わせ
市生涯学習課市史編さん係（☎72・1275）

は座敷と次間が並び、次間は客用の玄関間を兼ねる。これらの北側に御部屋を配す。座敷・次間以外には2階を設け、御部屋の上階の部屋には天井を張る。座敷には床の間を備え、その横は半間奥まつて仏壇を安置する。書院は半間の平書院で、内法長押を打たない。

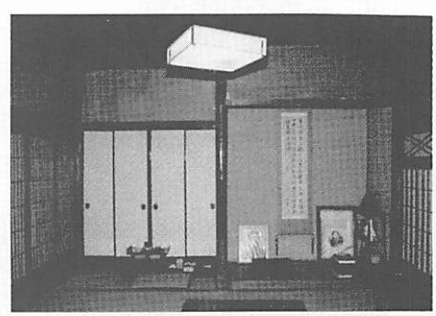
当住宅と城内に残る武家住宅との違いは、広い土間があること、次間が客用の玄関を兼ねること、9寸を超える太い差し物を多用することなどである。

当住宅は、市内に残る数少ない江戸時代の住宅として貴重である。そして、在郷武士の住宅であることにより、その建築的価値はさらに高まる。

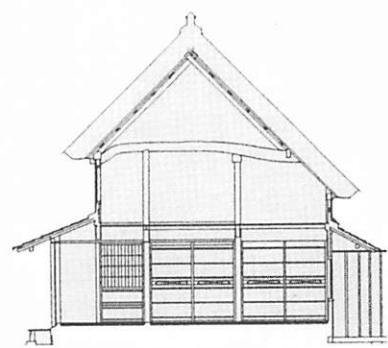
市史編集委員 松岡高弘



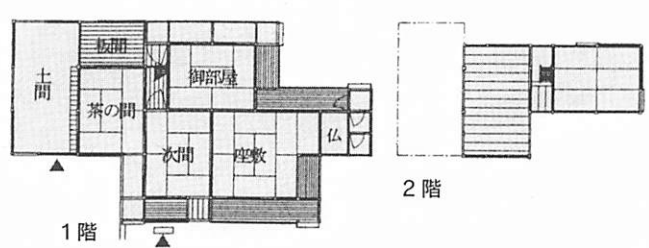
綿貫家住宅正面



綿貫家住宅座敷



茶の間・上階 断面図



復原平面図

カササギ
カササギは、腹や肩が白く、その他は青みを帯びた光沢のある黒色の美しいカラス科の鳥で、日本では北部九州の平野部にのみ生息しています。筑後地方では「こうげがらす」とか「かちがらす」とも呼ばれ、秀吉の朝鮮出兵の際に持ち込まれ、それが繁殖したといわれています。国の天然記念物にも指定されており、柳川の点景としてなくてはならぬ大切な鳥ですが、最近ではあまり見られなくなりました。

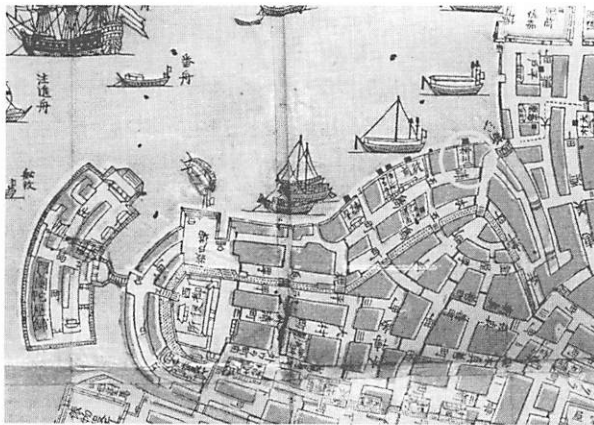


「柳川百選」より▲

柳川藩の長崎屋敷

江戸時代、諸藩が領国以外に江戸屋敷と大坂蔵屋敷を有していたことはよく知られています。柳川藩はこのほかに長崎にも屋敷を有していました。

柳川藩のほかにも、福岡藩、佐賀藩、対馬藩、熊本藩、小倉藩、平戸藩、薩摩藩、萩藩、久留米藩、島原藩、唐津藩、大村藩、福江藩が長崎屋敷を有していました。この長崎屋敷には、各藩の長崎聞役（柳川藩では長崎外聞役）という役人が詰めて



▲長崎市地図（黄色で囲った部分が柳川藩の長崎屋敷）



▲柳川藩の長崎屋敷があった五島町公園

いて、幕府の長崎奉行の指示を国元に伝達することを主な業務としていました。

この長崎聞役の成立は、正保四年（一六四七）のポルトガル船長崎来航が契機とされています。その際には、寛永十九年（一六四二）に断交したポルトガルの船から長崎を防衛するため、福岡藩、佐賀藩などともに柳川藩も軍勢を派遣しました。実際に戦火を交えることはありませんでしたが、この事件の後、先に挙げた

■ 問い合わせ

市生涯学習課市史編さん係（☎72・1275）

各藩が長崎防衛に即応の体制を取れるよう長崎屋敷に長崎聞役を置いたのです。

柳川藩の長崎外聞役は常駐ではなく、五月中旬から九月下旬まで、つまりオランダ船が来航する時期のみ駐在しました。このような体制を「夏詰」と称し、薩摩藩、萩藩、久留米藩、島原藩、唐津藩、大村藩、福江藩が同様の体制でした。これに対し、福岡藩、佐賀藩、対馬藩、熊本藩、小倉藩、平戸藩は、長崎聞役を常駐させる「定詰」と称する体制をとっていました。

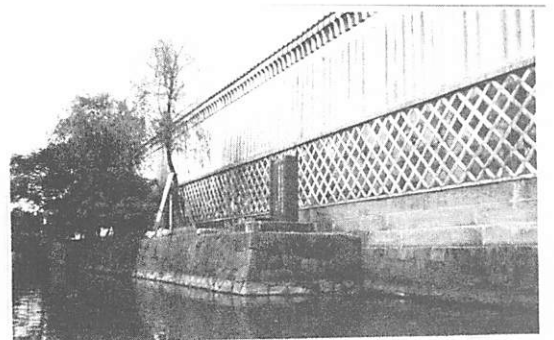
柳川藩の長崎屋敷は、元禄期（一六八八〜一七〇四）ころには万屋町（現長崎市万屋町）にあったようですが、享和二年（一八〇二）の長崎市中絵図には浦五島町（現長崎市五島町）に柳川藩の屋敷が描かれているので、これ以前に浦五島町へ移っていたことがわかります。この浦五島町の柳川藩長崎屋敷の場所は、現在のJR長崎駅のほど近くにある五島町公園がその跡地にあたります。

市史編さん係 白石直樹

「柳川百選」より

殿の倉 新外町 (MAP 2-10)

殿の倉は、柳川藩主であった立花家に伝わる大名道具を展示する資料館ですが、川下りコースに面したなまこ壁は、終点近くのビュースポットでもあります。なまこ壁とそれが水面に揺らめながら写る様は風情があります。白秋の歌にも「殿のお倉」の白壁に映る水かけろうを詠んだ歌があり、水郷柳川らしい名所のひとつです。



文部科学大臣賞受賞作品

盛夏せいなか


汗びつしよりのイモムシ。
風鈴は止まり、
龍が見下ろす川が消えた。
アスファルトは泣かない。
目玉焼きが飛び跳ね、
鼻息の荒い犬がすわりこんだ。
「夕立ちだ。」

無人の車がエンジンを起こし、
カラスはシラけて
「カーア」と鳴く。
白ひげ大王の雲が怒鳴る。
迷い子のゴキブリは
うれしそうに飛んでいった。
トンボはプールで水遊び。
ヤゴの出番は来ないのか。
僕は蚊取り線香に火を点けた。
迷路の終点はない。

作者の紹介
渡辺 圭二郎 君（大牟田市立松原中学校2年）

受賞コメント

本当にうれしいです。国語の授業中に書いた詩なのですが、あの7月の暑かった授業を思い出しました。このときのテーマは「人間以外で、今、暑い思いをしているものは何だろうか？」で、窓の向こうの大きな木を見ていたら「イモムシ」の姿が浮かび、後は頭に浮かんだものを一気に書きました。




●平成23年度 白秋献詩
応募総数は7835編
渡辺圭二郎君（大牟田市立松原中）
文部科学大臣賞を受賞

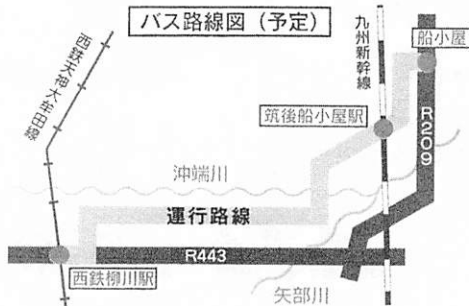


15日、9時30分に沖端水天宮前を出発した水上バレードは、およそ80分かけて三柱神社に到着。勝ち星をあげ、横綱に上がってほしいとの願いから川上りとした。バレード船は本場所の取組数にちなみ15艘。艇割沿いには隙間なく観衆が並び、大関昇進を祝う小旗を振ったり、声援をかけたりして祝った。市民栄誉賞の授賞式は三柱神社に隣接する高畑公園で行われた。市民栄誉賞の第1号となった大関には、副賞としてJA柳川から体重と同じ柳川産米174kgと、県有明海海苔共販漁連からノリ1年分が送られた。



九州新幹線全線開通にあわせ 3月12日に路線バスが開設

船小屋と柳川の間を路線バスが走ります



3月12日の九州新幹線全線開通に合わせ、船小屋と柳川を結ぶ路線バスが同日から運行されます。この路線バスは、筑後船小屋駅利用者の利便性の向上と広域観光の振興として、また地域住民の生活路線として運行するものです。

路線バスは、九州新幹線筑後船小屋駅から旧国鉄佐賀線跡地道路を通過して西鉄柳川駅の間を走る最短ルートで、所要時間は約20分。途中に12か所の

バス停を設置予定です。運行時間帯は新幹線のダイヤに合わせ、おおむね午前7時から午後8時まで。1日9往復(18便)、約1時間に1往復(2便)が運行されます。筑後船小屋駅から柳川駅までの運賃は、片道大人360円、子ども180円の予定。路線バスの時刻表や運賃表、バス停の位置などは3月15日号の広報でお知らせします。

問い合わせは、市企画課企画係(☎77・8423)へ。

◀「広報やながわ」23年3月号より



大和・三橋の社寺建築がこの一冊に
柳川の社寺建築II
A4版464ページ
価格1500円(税込み)

旧大和町・三橋町に現存している寺院50か所、神社105か所を調査し、写真や図面などで解説している報告書です。柳川古文書館や市内外の書店で買い求められます。

問い合わせは、市生涯学習課市史編さん係(☎72・1275)まで。

▲「広報やながわ」23年7月号より



長谷健の絶筆の
未完の小説を出版

柳川ふるさと塾(原達郎塾長)は、柳川市出身の直木賞作家、長谷健の小説『帰去来』を出版しました。これは北原白秋を主人公にした『からたちの花』、『邪宗門』に次ぐ最終編で、1957年に長谷健が執筆中に他界したため絶筆となっていた作品です。

しかし、塾長の原さんが「柳川の人に読んでもらいたい」という気持ちから、著者の息子の藤田弘道さんに連絡し許可をもらって、未完の最終編を自費出版しました。

価格は1部1300円(税別)。白水堂書店(☎73・2695)で取り扱っています。

問い合わせは、同塾長の原さん(☎090・8835・5957)まで。

「広報やながわ」23年6月号より▶

賛助金のお振込方法

① 同封の郵便振替用紙による

② 銀行振込による

銀行名 三菱東京UFJ銀行 銀行コード(0005) 支店名 駒込支店 店コード(061)
普通預金
口座番号 1073673
口座名 伝習館東京同窓会

いずれのお振込の場合にも必ず回生又は卒業年度をお書き下さい。

広告募集

チラシ広告

対象Ⅱ東京同窓会会員向けに製品・商品・営業内容などをPR、販売したい方。

- チラシ三千部を作成し(フォーム自由)事務局宛(P36参照)送付下さい。会員への会報送付時に同封郵送します。
- 広告代金Ⅱ一件につき弐万円を賛助金として頂きます。

会員の皆様からも、希望業者の方をどしどしご紹介下さい。

募集中!

2. 1. 表紙絵・表紙用写真

原稿—伝習館OBならダッデンヨカバンモ
○テーマ—自由(同窓会報にふさわしいもの)
小説・随筆・詩・短歌・俳句・川柳、絵画・写真・絵手紙、書など

- 字数制限なし(極力四〇〇字詰め(20×20)原稿用紙使用)写真・絵・カット添付可
- 表題・投稿者氏名・卒業年度・総字数を書いて下さい。

—原稿送付先—

〒344・0032
春日部市備後東8・8・32
伝習館東京同窓会 小野 善睦 行
☎・FAX048・735・2431

編集後記

○会報も、少々マンネリを感じがしてきました。編集委員の交代・刷新・若返りの時期と思います。

○「先輩・後輩」欄の執筆者が学年幹事さん方のご努力により増えて来ました。今後もできるだけ広い範囲の方々のご投稿を期待します。特に高12・小野アケミさん、高14・高木節子さん、ご協力ありがとうございました。

○江崎会長の一文は、同期会誌「東京星座」に掲載したものです。本人は「自己顕示欲が強い奴だと思われる」と固辞されましたが、誰でもが人生行路の軌跡の中で、大きな岐路に立つ。その時のその人の選択が読者をひきつけるドラマだと思い、その典型として無理を言って転載させてもらいました。

会員の皆様にも多くのドラマを持ってターニングポイントを通過して来られた経験があると思います。是非、後輩達のためにもそんな自分の軌跡を思い起こし、執筆投稿してください。

○現在の編集委員は次の通りです。

小野 善睦(高2)
内山 秀生(高10)
永倉(跡部)素子(高10)
江崎 正直(高2)
副会長 松永 肅(高5)
副会長 原田(立花)万紗子(高13)
発行責任者 江崎正直

〒156・0043
東京都世田谷区松原3・39・25・801



伝習館東京同窓会事務局

〒170-0003 東京都豊島区駒込3丁目3-19 千鳥屋方

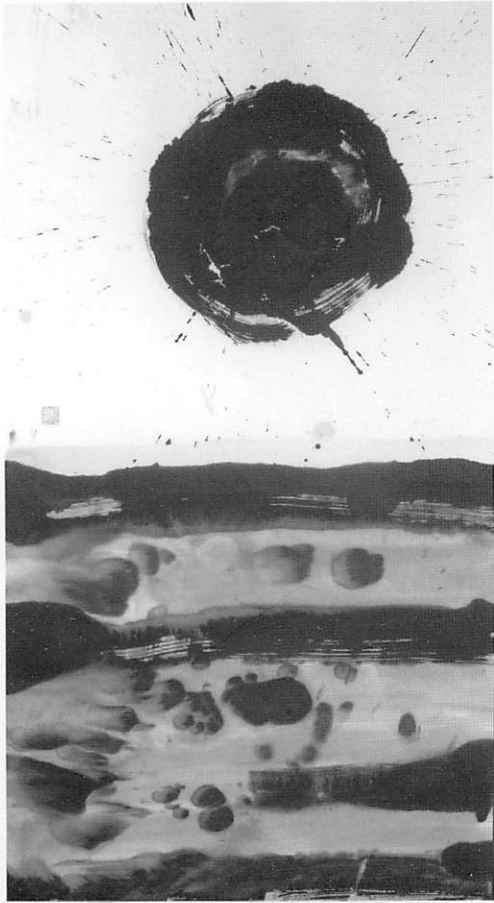
TEL 03(3915)0865 FAX 03(3918)8139

<http://densyukan-tokyo.jp/>

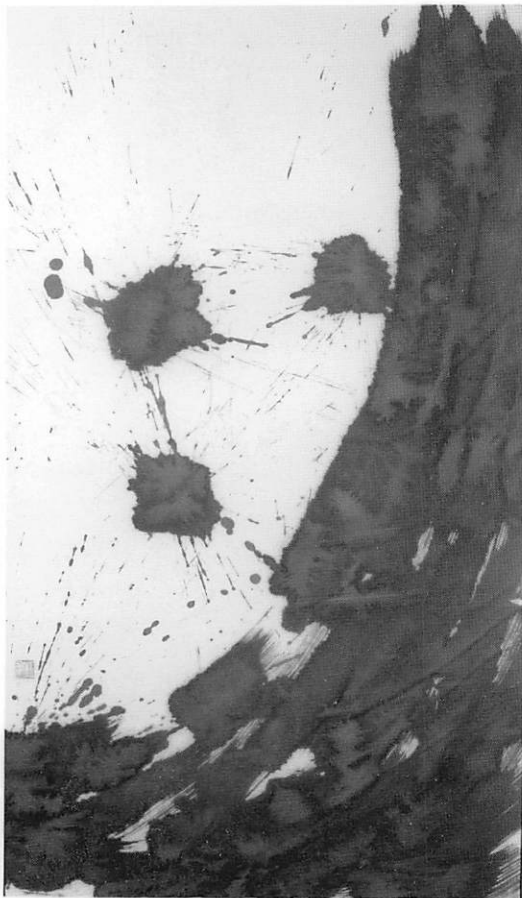
伝習館東京同窓会学年幹事名簿 平成23年10月現在

卒業年次	氏名	卒業年次	氏名	卒業年次	氏名
中学第48回	宮本弘道	第12回	小野アケミ(岸川)	同上	中島眞二
同上	中野貞幸	同上	辻野史朗	同上	永岡雅子
中学第49回		第13回	田中利道	同上	余田博明
中学第50回		同上	尾田義昭	第29回	
中学第51回	松田 含(星野)	同上(副会長)	原田万紗子(立花)	第30回	橋爪政男
中学第52回		第14回	石橋俊一	同上	小野弘美(中山)
中学第53回	古賀和典	同上	高木節子(堤)	第31回	池松利活
同上	木下憲男	第15回		第32回	柴田雅秀
中学第54回	富重克巳	第16回	椛島正司	同上	一木享之介
中学第55回	江崎和夫	同上	安倍環江(松藤)	同上	大山 恵(相浦)
同上	小泉祐一郎	同上	水澤昭子(田中)	同上	守谷由佳(富重)
中学第56回	鬼丸敏男	第17回	宇木博巳	同上	森 雅宣
同上	成清良孝	同上	北島文之	同上	森永 明
高女第45回	石橋佳香(石橋)	同上	下吹越智佳子(横山)	同上	境 和晃
高校第1回	永江政勝	同上	藤木清勝	第33回	廣松崇人
同上	増尾義勝	同上	浦川邦憲	第34回	大津志保
第2回	石崎知見	同上	福山雅文	第35回	山口英治
(会長)	江崎正直	同上	北島すえ子	同上	橋本知彦
(編集委員長)	小野善陸	第18回	福山博彰	第36回	松藤 亘
第3回	酒井清行	同上	十時理展	第37回	江口一元
第4回	荒井健之輔	同上	満生英二	第45回	浦 裕美
同上	丸勢正夫	第19回	芹川季代子(立花)	第50回	河内慎治
同上	渡邊喜亮	第20回	高巢和登	第51回	大曲由起子
第5回	岸 栄洋	同上	岡 賢二	第55回	武下優子
(副会長)	松永 肅	同上	近藤敬介	同上	松尾晴菜
第6回	石橋 修	第21回	西原正道	同上	龍 幸弘
同上	戸上軍治	同上	白谷政則	第58回	市川広大
同上	高木 健	第22回	北原富美男	同上	廣松綾香
同上(会計)	荻島直記	第23回	坂本智臣	第59回	川口 惇
第7回	田中敬之助	同上	成田八重子(成田)	同上	古賀康之
同上	龍 弘道	同上	樋口貴美子(田上)	同上	深町日出海
同上	中園喜久子	同上	佐竹優子(池上)	第60回	小柳真咲
同上	永江嵩子(測上)	同上	吉村明恵(与田)	第61回	江崎崇浩
第8回	樋口誠佑	同上	高田健二	同上	植木 智
第9回	石橋淑子(古沢)	第24回	酒見和平	第62回	亀崎元貴
同上	原田光紀	同上	笹子幸子(川津)	同上	古賀康孝
第10回	内山秀生	第25回		同上	廣松 亮
同上	永倉素子(跡部)	第26回		同上	中川原雄太
第11回	北原 博	第27回			
同上	永尾弘行	第28回	吉開孝人		

幹事未選出の学年は至急選出して事務局までご連絡下さい。

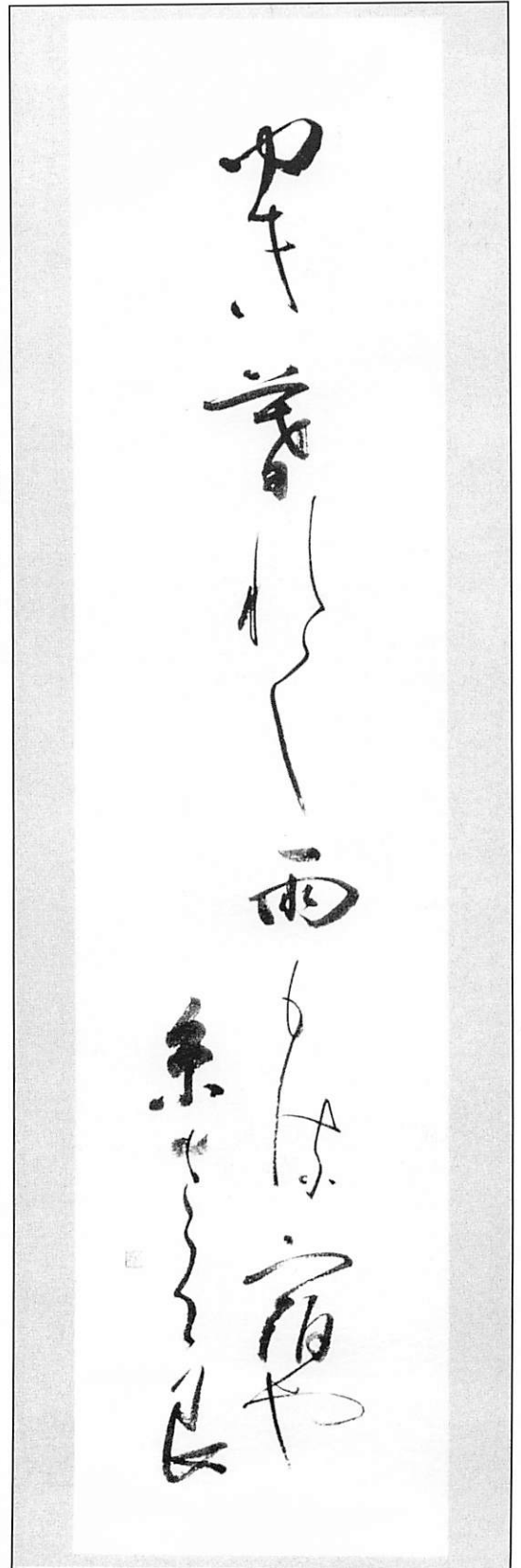


「沈まぬ太陽 (白夜を夢見て)」 2011年 155cm×88cm
現代精鋭書人大賞



「夜明け前」 2011年 155cm×88cm
書芸文化至宝鳳凰賞

「ゆき暮れて雨もる宿や糸さくら 蕪村 (与謝)」
第53回日書展 2尺(66)×6尺(198)



「書 3点」
高6 木村 松峯 (峯子) 氏

